



取付説明書

TOYOTA CELICA
ZZT231

BLITZ

(1)安全上のご注意

はじめに

- ・ この製品についての説明には、製品を使用する際と、自動車に装着する際の注意事項が詳しく記載してあります。良くお読みになって、正しくお使いください。
- ・ 装着車両に、この製品システム以外の製品装着や改造を行った場合に発生する不具合に関して、弊社は責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
- ・ お客様ご本人または第三者の方が、この製品および付属品の誤った使用や、その使用中に生じた故障、その他の不具合によって受けられた障害については、弊社は一切その責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
- ・ この製品および付属品は、改良のため予告なく変更する事があります。
- ・ キットの構成部品はパーツリストに記載してあります。取り付け前に異品・欠品の無いことを確認してください。

警告

この表示を無視して、誤った取り扱い・作業を行うと、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される危険の状況を示します。

- ・ 換気の良い場所で取り付け作業を行ってください。
換気の悪い場所で作業を行うと、爆発・火災の原因となります。
- ・ バッテリーのマイナス端子をはずしてから、取り付け作業を行ってください。
配線のショートなどによる火災、電装部品の破損、焼損の原因となります。
- ・ コネクタを外す場合、ハーネスを引っ張らず、必ずコネクタを持って取り外してください。
ショートなどによる火災、電装部品の破損、焼損の原因となります。
- ・ この製品に異音・異臭などの異常が生じた場合には、製品の使用をすみやかに中止し、販売店または弊社までお問い合わせください。
そのまま使用すると、感電や火災、電装部品の破損の原因となります。
- ・ この製品の取り付け時に、エンジンルーム内の電気配線や配管類を傷つけないよう注意してください。
ショートなどによる火災、電装部品・エンジン・車両の破損の原因となります。
- ・ 部品交換は自動車が不安定な状態で作業すると危険です。必ず自動車作業専用リフトを使用して、安全に作業してください。
【二柱式リフトをお勧めします】
やむをえずガレージジャッキを使用する場合は、必ずリジットラック(馬、安全スタンド)を併用して安全に作業してください。車載ジャッキでの作業は危険なので絶対に行わないでください。

注意

この表示を無視して、誤った取り扱い・作業を行うと、人が軽傷また中程度の傷害を負う可能性が想定される危険な状況および物質損害の発生のみが想定される状況を示します。

- ・ この製品の取り付けは、必ず専門業者に依頼してください。
取り付けには専門の知識と技術が必要です。
- ・ この製品を装着前に落下させたり、装着時に無理な力を加えないでください。
作動不良や空気漏れの原因になる場合があります。
- ・ この製品の加工・分解・改造は行わないでください。
事故、火災、感電、電装部品の破損、焼損の原因となります。
- ・ この製品の取扱いは慎重に行ってください。落としたり強いショックを与えないでください。
事故、火災、感電、電装部品の破損、焼損の原因となります。
- ・ エンジンルーム内の温度が下がってから、作業をはじめてください。
エンジン本体、ラジエター、排気関係の部品は高温になり、火傷の恐れがあります。
- ・ 定期的に点検を実施し、十分に注意してご使用ください。
この製品は耐久性を考慮して、厳選された材料を使用し、厳重な社内品質管理のもとに製造されていますが、車両の使用条件などにより、耐久性が落ちたりする事があります。
- ・ 取り付け作業のために一時的に取り外す純正部品は、破損・紛失しないように大切に保管してください。
当社は取り付け作業による物的損害の責任を負うことはできませんので、慎重に作業を行ってください。
- ・ ボルト・ナット類は、適当な工具で確実に締め付けてください。
必要以上に締め付けを行うと、ボルトのネジ部が破損します。

重要事項

- ・ この製品はノーマル車輛を基準に製作されています。
ノーマル車輛以外に取り付けた場合は、製品の機能・性能及び安全性・耐久性について保証いたしかねます。
- ・ 製品装着時は、異物が混入しないよう、十分に注意をしてください。
異物等が混入すると最悪の場合エンジン破損の原因になる場合があります。
- ・ 純正部品の取り付け、取り外しの作業はメーカー発行の整備要領書をよく読んでからおこなってください。
整備要領書がお手元がない場合はメーカーにてご購入ください。
- ・ 走行前には、オイル・冷却水・排気ガス等の漏れがないか点検を行ってください。
漏れのある状態での走行は、車輛火災やエンジン破損等の恐れがあり危険です。
- ・ このキットはハイオクガソリン指定となります。
レギュラーガソリンを使用しますとノッキング等を発生させ、最悪の場合エンジン破損の原因になる場合がありますので、必ずハイオクガソリンを使用してください。
燃料タンクのカソリン入れ換え作業は危険を伴いますので、特に火気に注意してください。
- ・ 本キットを取り付ける際は必ず点火プラグを熱価の高いものに交換してください。
- ・ 本キットを取り付けた場合、純正フォグランプを取り付けることは出来ません。

【作業の方へお願い】

作業が終了しましたら、本取扱説明書は必ずお客様に返却してください。

作業にとりかかる前に必ず下記の点を点検してください。

純正のホースやバンド等の部品に変形、割れ、ひび等の劣化が生じていたら純正品の新品に交換してください。

(2) 適合車種

車 名: TOYOTA CELICA

型 式: ZTZ231 MT車





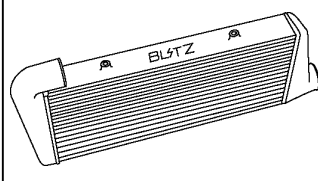






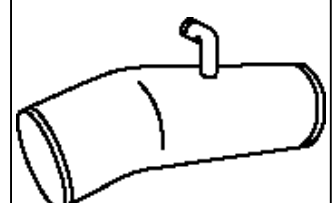








年 式: 1999年9月～


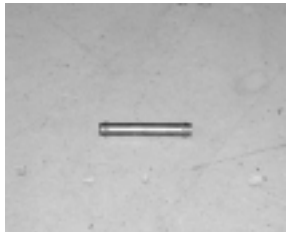







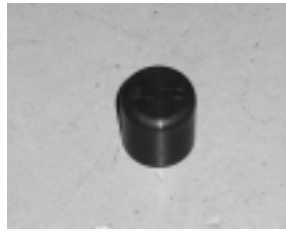




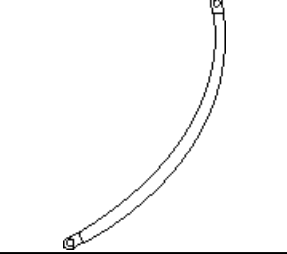
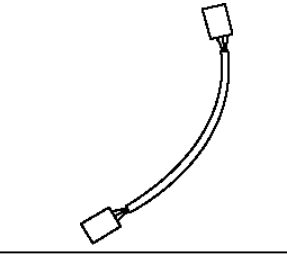
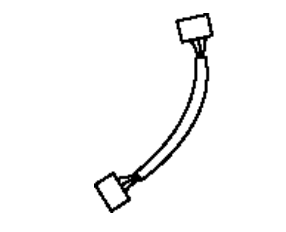



製品番号: 10181

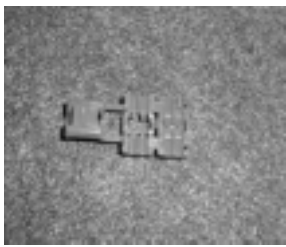



製品名称: BLITZ COMPRESSOR SYSTEM





(3) パーツリスト

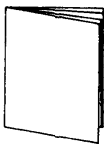
<p>1 コンプレッサ-本体 1ヶ</p> 	<p>2 インテ-クマニホ-ルド 1ヶ</p> 	<p>3 チャンバ- 2ヶ</p> 	<p>4 オイルパン 1ヶ</p> 
<p>5 ガasket 2ヶ</p> 	<p>6 アイドラブ-リ-ブラケット 1ヶ</p> 	<p>7 コンプレッサ-ブラケット 1ヶ</p> 	<p>8 オルタネ-タ-ブラケット 1ヶ</p> 
<p>9 アイドラブ-リ-カ-ラ- 2ヶ</p> 	<p>10 ク-ラ-コンプレッサ-カ-ラ- 2ヶ</p> 	<p>11 アイドラブ-リ- 2ヶ</p> 	<p>12 スロットルケ-ブルステ- 1ヶ</p> 
<p>13 コンプレッサ-ステ- 1ヶ</p> 	<p>14 インテ-クマニホ-ルドステ- 1ヶ</p> 	<p>15 エアコンホ-スステ- 1ヶ</p> 	<p>16 エアパ-ク-ク-センサ-ステ- 2ヶ</p> 
<p>17 レベルゲ-ジガイドステ- 1ヶ</p> 	<p>18 インタ-ク-ラ-ステ- A 2ヶ</p> 	<p>19 インタ-ク-ラ-ステ- B 1ヶ</p> 	<p>20 エアク-リ-ナ-ステ- 1ヶ</p> 

21 ハステクーラー-ステー A 1ヶ	22 ハステクーラー-ステー B 1ヶ	23 ブローパイプ No.1 1ヶ	24 ブローパイプ No.2 1ヶ
			
25 インタークーラー本体 1ヶ	26 インターパイプ No.1 1ヶ	27 インターパイプ No.2 1ヶ	28 インターパイプ No.3 1ヶ
			
29 インターパイプ No.4 1ヶ	30 インターパイプ No.6 1ヶ	31 60エルボパイプ 1ヶ	32 サクションパイプ 1ヶ
			
33 シリコンホース 60 4ヶ	34 シリコンホース 70 2ヶ	35 異型シリコン 60- 70 4ヶ	36 ホースバンド L 8ヶ
			
37 ホースバンド S 12ヶ	38 ハステオイルクーラー 1ヶ	39 ニップル 4-1/8PT 1ヶ	40 ニップル 6-1/8PT 1ヶ
			

41 ニップル 21-3/4PT 1ヶ	42 ストレートニップル 9 2ヶ	43 ストレートニップル 19 1ヶ	44 19 ホース 450mm 1ヶ
			
45 9 ホース 2000mm 1ヶ	46 6 チューブ 700mm 1ヶ	47 4 ホース 1000mm 1ヶ	48 19 コルゲートチューブ 1ヶ
			
49 15 コルゲートチューブ 1ヶ	50 ゴムキャップ 19 1ヶ	51 クランプ L 6ヶ	52 クランプ S 8ヶ
			
53Vベルト 1ヶ	54 フューエルレギュレータ 1ヶ	55 オルタネーターハーネス A 1ヶ	56 オルタネーターハーネス B 1ヶ
			
57 オルタネーターハーネス C 1ヶ	58 クラッチ用スイッチ 1ヶ	59 リレ-ハーネス 1ヶ	60 フューエルコントローラ- 1ヶ
			

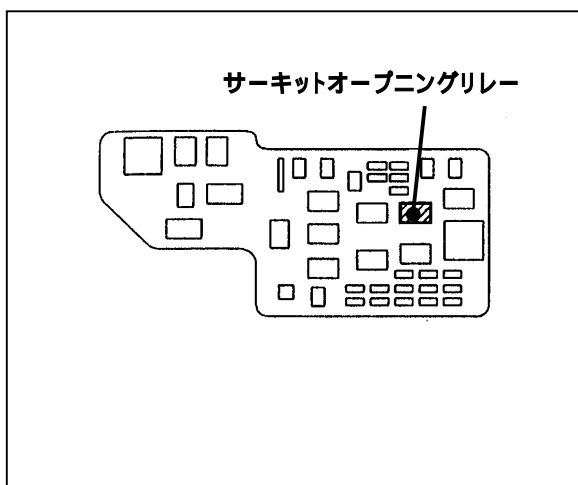
61 エレクトロタップ 11ヶ	62 キボシ・スリーブセット 1ヶ	63 SUS パワー-LM 1ヶ	64 沈みプラグ 1ヶ
			

65 タイラップ 大 15ヶ タイラップ 小 10ヶ	66 7コルゲートチューブ 1ヶ	67 コンプレッサプレート 1ヶ	68 ハイオクステッカー 2ヶ CAUTIONステッカー 2ヶ
			

69 取り扱い説明書 1ヶ


a フランジボルト M6×8 1ヶ	b フランジボルト M6×16 6ヶ	c フランジボルト M6×20 30ヶ	d フランジボルト M8×12 3ヶ
e フランジボルト M8×16 5ヶ	f フランジボルト M8×35 1ヶ	g フランジボルト M8×45 1ヶ	h フランジボルト M8×50 1ヶ
i フランジボルト M10×35 4ヶ	j 六角ボルト M8×110 3ヶ	k 六角ボルト M10×55 1ヶ	l キャップボルト M6×15 2ヶ
m キャップボルト M8×15 3ヶ	n スタッドボルト M8 2ヶ	o フランジナット M6 4ヶ	p フランジナット M8 7ヶ
q フランジナット M10 1ヶ	r ワッシャー-M6 2ヶ	s ワッシャー-M8 3ヶ	t ワッシャー-M10 3ヶ

(4) 純正部品取り外し作業



(1) 燃料流出防止作業

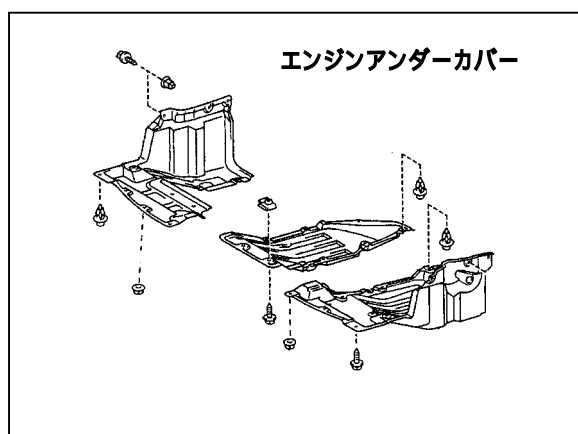
エンジンルームジャンクションブロック内のサーキットオープングリレーを取り外す。

エンジンを始動し、自然に停止した後、イグニッションスイッチをOFFにする。

バッテリーのマイナスターミナルを取り外す。

サーキットオープングリレーを取り付ける。

フューエルタンクキャップを外し、フューエルタンク内の圧力を抜く。



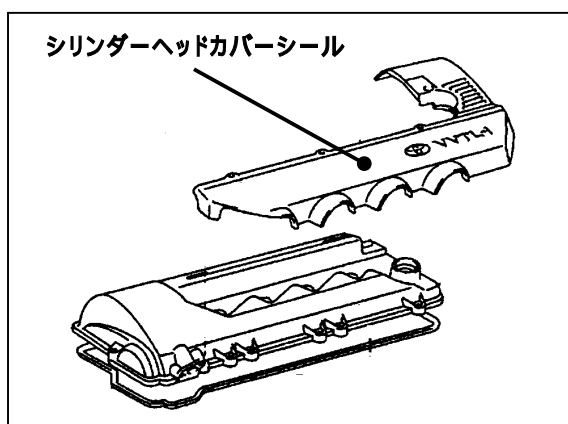
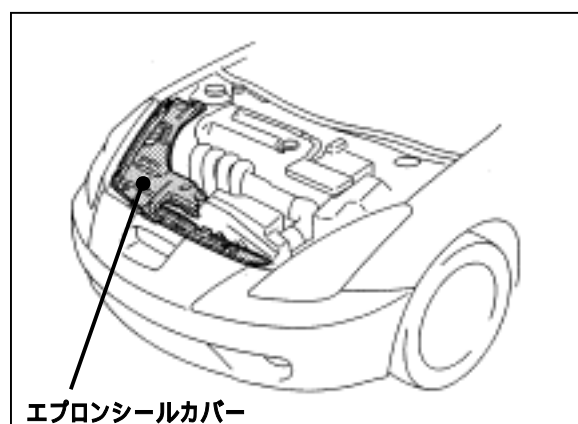
(2) エンジンアンダーカバー類を取り外す。

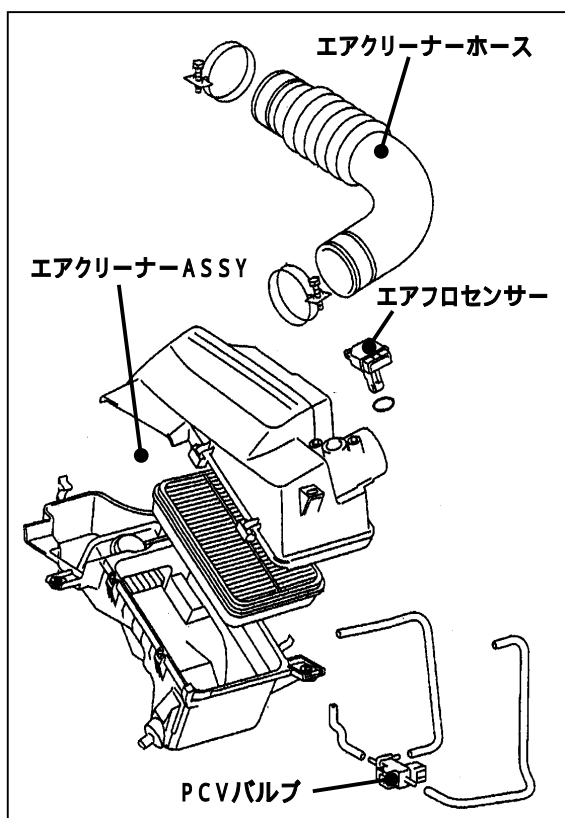
(3) ドレンボルトを取り外し、エンジンオイルを抜く。

(4) コックを緩めて、冷却水を抜き取る。

(5) エプロンシールカバーを取り外す。

(6) ボルト(4ヶ)を外し、シリンダーヘッドカバーシールを取り外す。





(7) 純正エアクリーナー取り外し

63 SUS パワーLMキット内付属の取扱説明書を参考にして下さい。

エアフロセンサー、VSVのコネクターを外す。

VSVの4ホースをインマニ側で抜き取る。

エアクリーナーケース裏に固定してあるPCVバルブを、ステーごと取り外す。

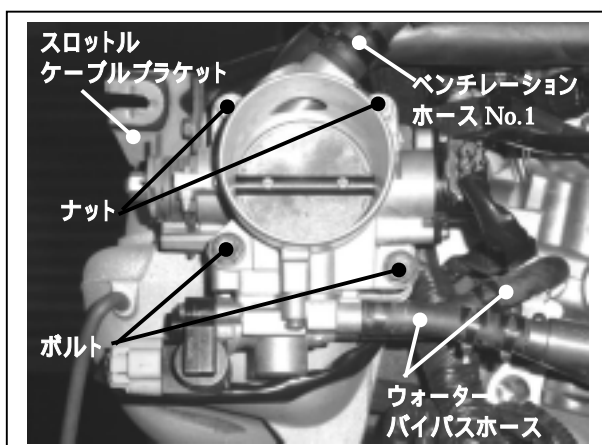
エアクリーナーASSYおよびエアクリーナーホースを車両より取り外す。

純正クリーナーケースより、エアフロセンサーを取り外す。

センサーのOリングを破損しないように注意して下さい。

VSVコネクターを、LMキット付属のタイラップで固定する。

固定場所は、62 SUS パワーLM 取扱説明書を参照して下さい。



(8) スロットルボディ取り外し

スロットルケーブルを取り外す。

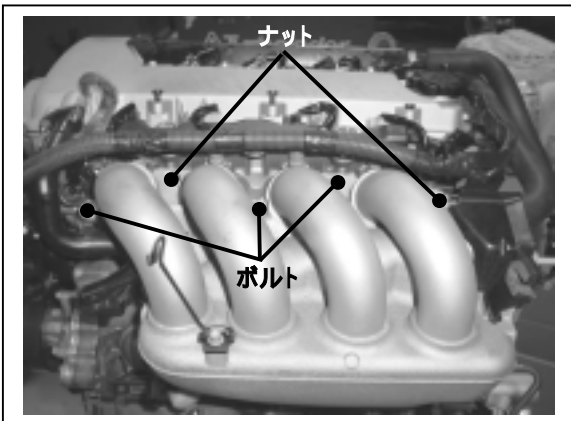
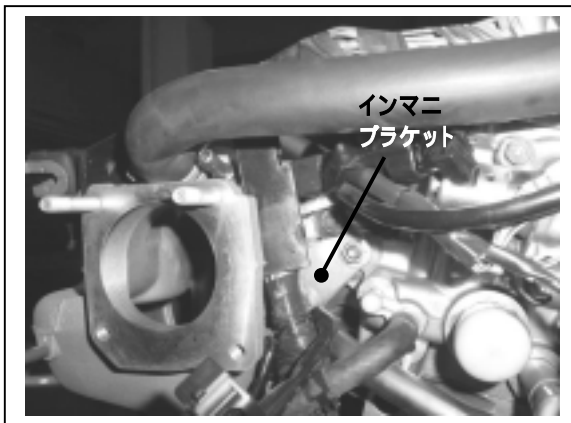
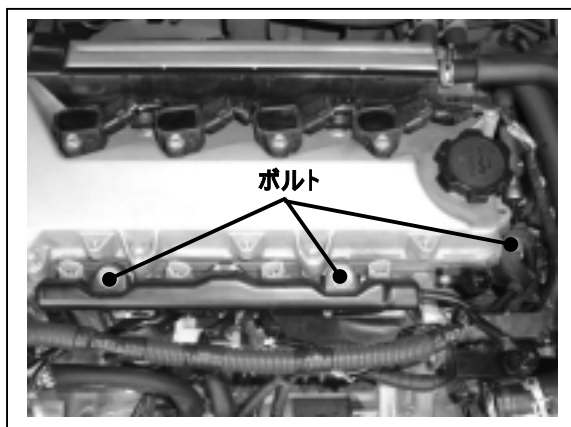
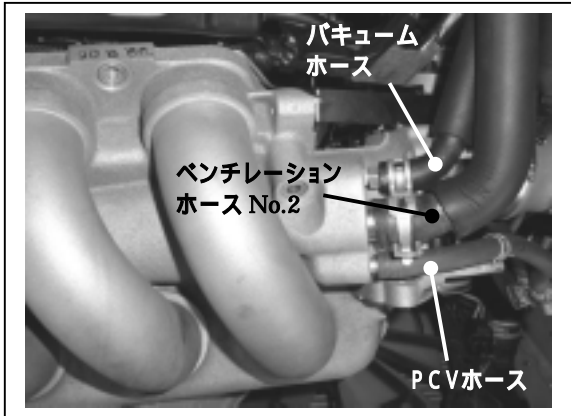
ボルト(2ヶ)を外し、スロットルケーブルブラケットを取り外す。

ベンチレーションホース No.1 をスロットルボディから取り外す。

ウォーターバイパスホース2本を取り外す。

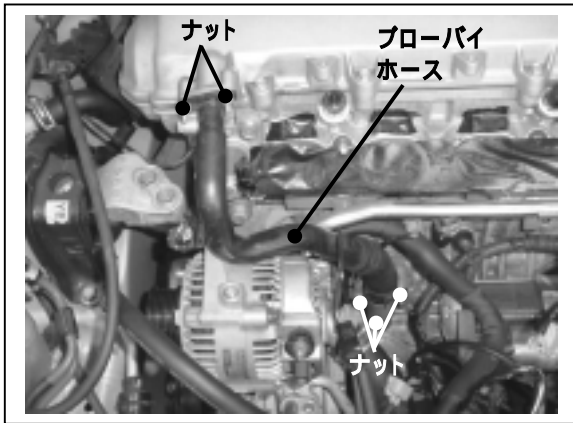
コネクター2個を取り外す。

ボルト(2ヶ)とナット(2ヶ)を外し、スロットルボディASSYおよびガasketを取り外す。

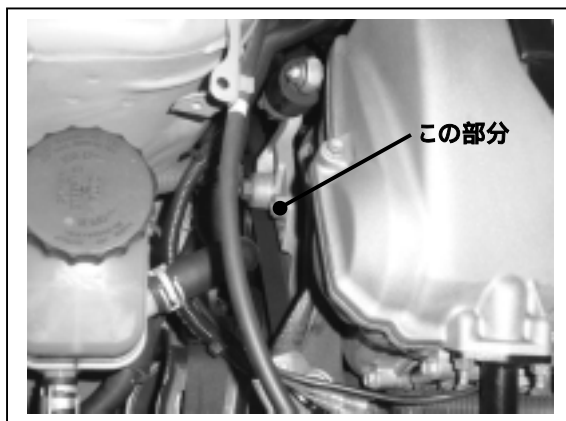


- (9) インテークマニホールド取り外し
ベンチレーションホース No.2、バキュームホース、PCVホースを、インテークマニホールドから取り外す。
インテークマニホールド上側のスポンジクッションを取り外す。
フューエルデリバリーパイプ取り外し
(ア) インジェクターのコネクターを外す。
(イ) カムポジションセンサーのコネクターを外す。
(ウ) ボルト3ヶを外し、インジェクター付きでフューエルデリバリーパイプを取り外し、フリーにする。
必ず、インジェクターがフューエルデリバリーパイプから抜けないように、取り外して下さい。
オイルレベルゲージを抜き、インテークマニホールドとオイルレベルゲージガイドを取り付けているボルト(1ヶ)を外す。
オイルレベルゲージのOリングの破損に注意して下さい。
インテークマニホールドと純正インマニブラケットを取り付けているボルト(2ヶ)を外す。
オルタネーターブラケットを取り外す。
冷却水リザーブタンクのボルト(1ヶ)を外し、フリーにしておく。
ボルト(3ヶ)、ナット(2ヶ)を外し、インテークマニホールドを取り外す。
冷却水リザーブタンクを、元通り取り付け。

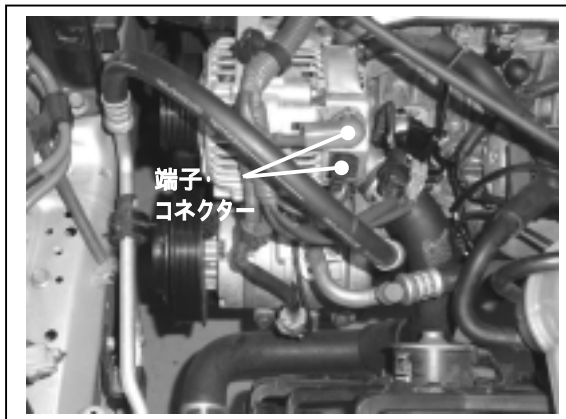
- (10) インテークマニホールド下側のスポンジクッションを取り外す。
(11) オイルレベルゲージガイドからコネクター2個を取り外し、オイルレベルゲージガイドを取り外す。



(12) ナットを外し、ブローバイホースをフランジごと取り外す。

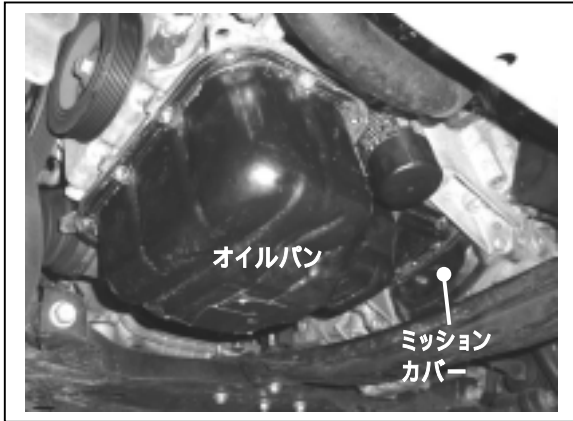


(13) 図の指示部分を、時計回りにトルクをかけてVベルトのテンションを緩めて、Vベルトを取り外す。



(14) オルタネーター取り外し
オルタネーターのコネクター1ヶと + B端子を取り外す。
ボルト2ヶを外して、オルタネーターを取り外す。





(15) オイルパン取り外し

ミッションカバーを取り外す。

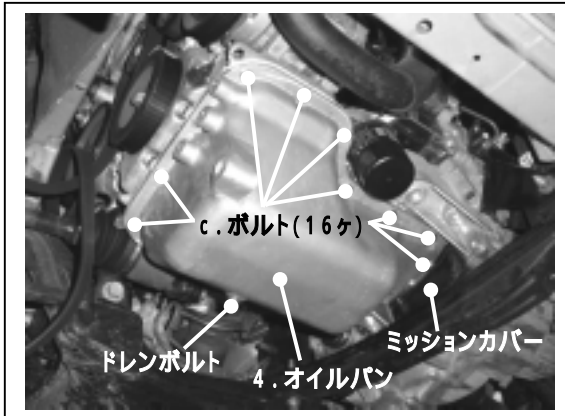
オイルパンのナット(4ヶ)・ボルト
(12ヶ)を取り外す。

オイルパンを、エンジンから取り外
す。

スタッドボルト(4ヶ)を取り外す。

エンジン側取り付け面に残った液状
ガスケットを、きれいに取り除く。

(5)コンプレッサーキット取り付け作業



(1) オイルパン取り付け

4 オイルパンと車輻側の両取り付け面を脱脂する。

オイルパンの取り付け面に、液状ガスケットを塗布する。

液状ガスケットは、オイルパンのボルト穴より内側に、塗布して下さい。

c. フランジボルトM6×20(16ヶ)を使用して、4 オイルパンを取り付ける。

締め付けトルク

$$= 10 \text{ N} \cdot \text{m} (100 \text{ kgf} \cdot \text{cm})$$

ミッションカバーを取り付ける。

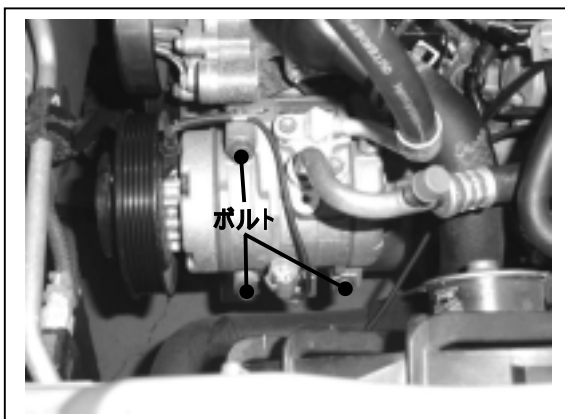
4 オイルパンと接触して取り付けられない場合は、削り加工して、取り付けして下さい。

純正ドレンボルトを、4 オイルパンに取り付ける。

新品のガスケットを使用して下さい。

4. オイルパンは、アルミ製です。ネジ部破損の原因となりますので、締め付けすぎには十分注意して下さい。

取り付け後2時間以内は、エンジンオイルを注入しないで下さい。



(2) クーラーコンプレッサー移動

クーラーコンプレッサーのコネクターを外す。

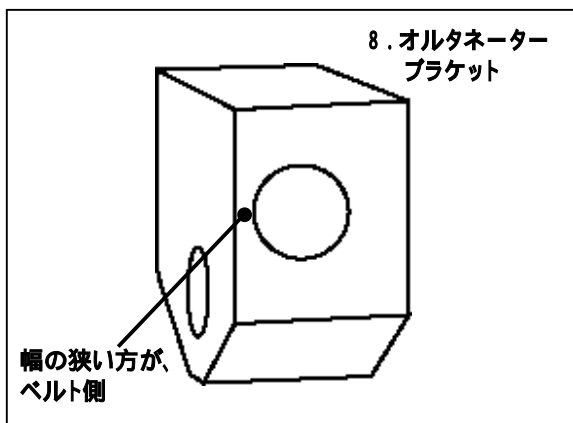
57オルタネーターハーネス C を接続して、クーラーコンプレッサーのハーネスを延長する。

ボルト(3ヶ)を外して、クーラーコンプレッサーを取り外す。

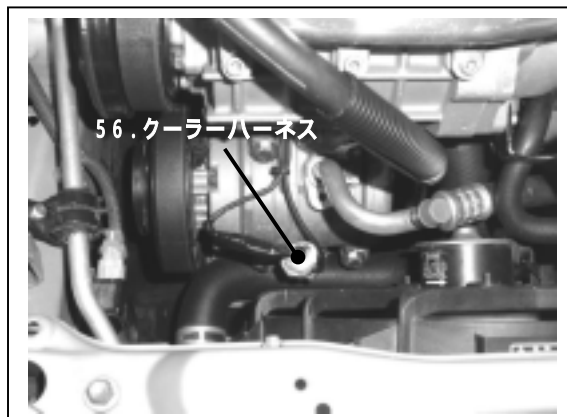
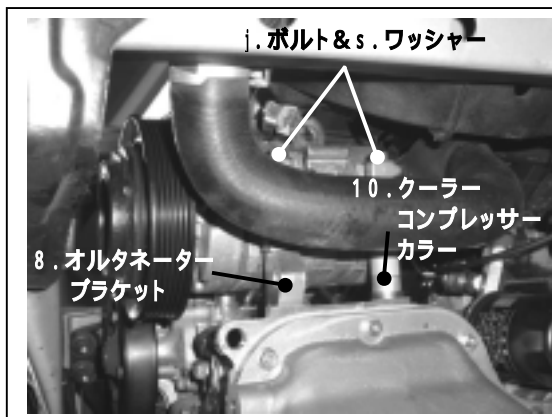
8オルタネーターブラケット、10クーラーコンプレッサーカラー(2ヶ)、j. 六角ボルトM8×110(3ヶ)、s. ワッシャーM8(3ヶ)を使用してクーラーコンプレッサーを仮止めする。

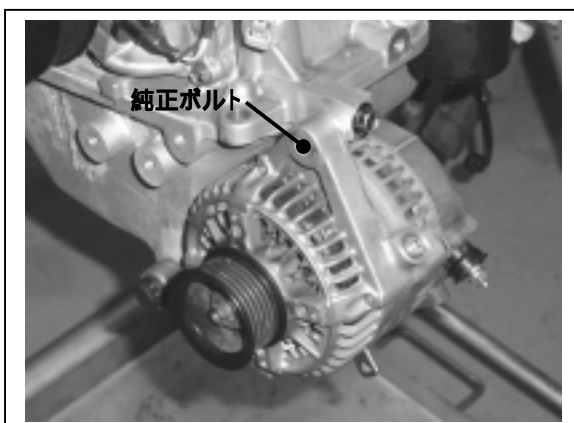
8オルタネーターブラケットの向きに注意して下さい。





で延長したハーネスを、クーラー
コンプレッサーのコネクターに取り
付ける。





- (3) 純正オルタネーターのボルト(2ヶ)を利用して、オルタネーターを取り付ける。

締め付けトルク

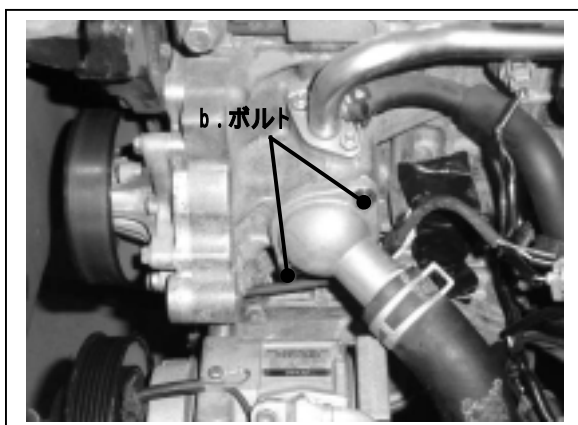
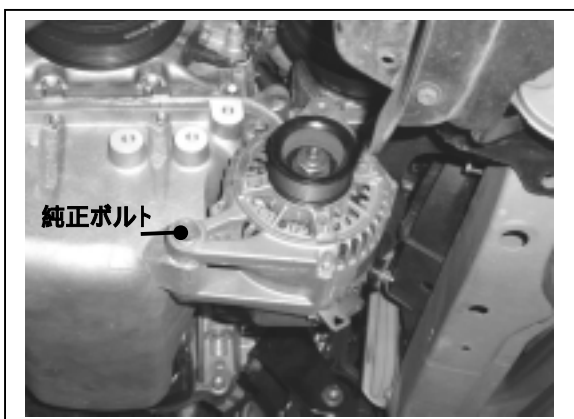
$$M8 = 29\text{N}\cdot\text{m} (290\text{kgf}\cdot\text{cm})$$

$$M10 = 58\text{N}\cdot\text{m} (580\text{kgf}\cdot\text{cm})$$

- (4) (2)で仮止めだったクーラーコンプレッサーを本締めする。

締め付けトルク

$$= 25\text{N}\cdot\text{m} (255\text{kgf}\cdot\text{cm})$$

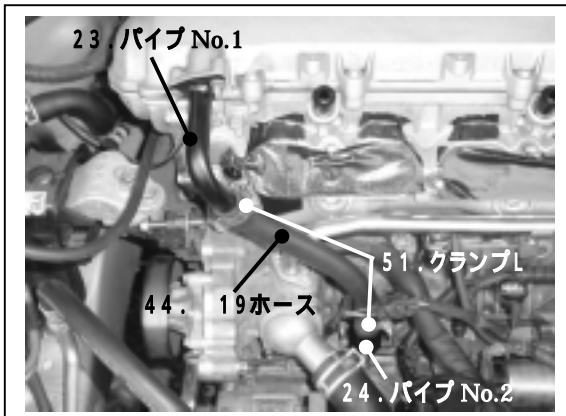
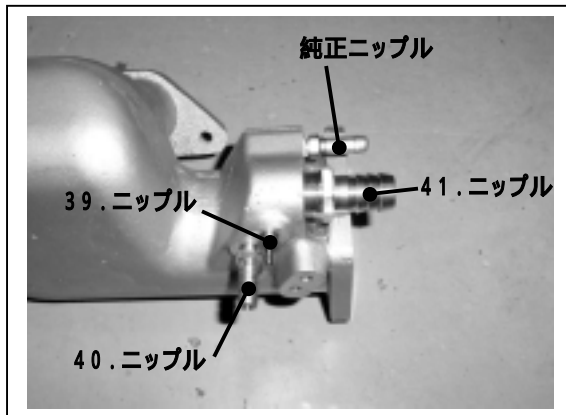
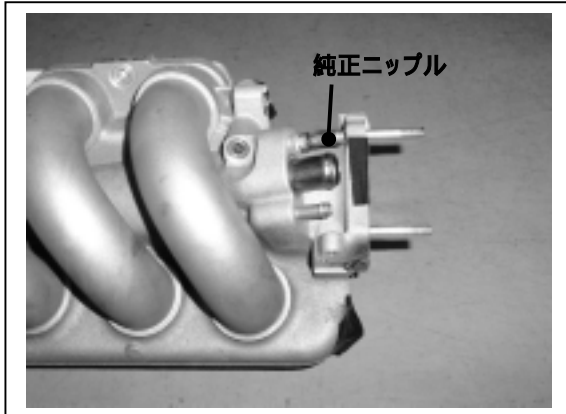
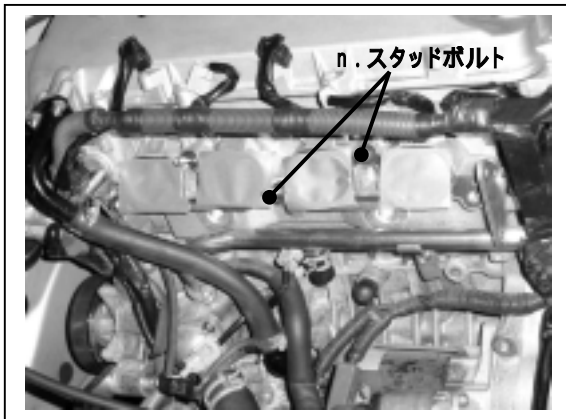


- (5) ウォーターインレットボルト付け替え
ウォーターインレットのナット(2ヶ)を外し、スタッドボルト(2ヶ)を取り外す。

b. フランジボルトM6×16(2ヶ)を取り付ける。

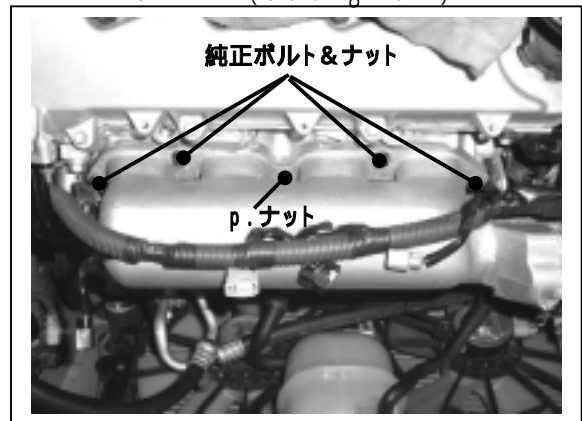
締め付けトルク

$$= 10\text{N}\cdot\text{m} (100\text{kgf}\cdot\text{cm})$$

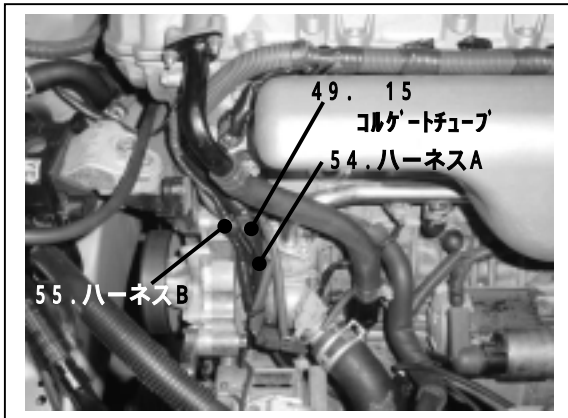


- (6) 2インテークマニホールド取り付け
 純正スタッドボルト(2ヶ)の内、右端の長いスタッドボルト(1ヶ)を取外す。
 n. スタッドボルトM8(2ヶ)を、図の位置に取り付ける。
 純正インテークマニホールドのニップル(1ヶ)を取り外す。
 2インテークマニホールドに、 で取り外した純正ニップル、**41ニップル** 21 - 3/4PT、**40ニップル** 6 - 1/8PT、**64沈みプラグ**を取り付ける。(ブースト計を取り付ける場合は**39ニップル** 4 - 1/8PTを取り付け、ここからインマニ圧力を取って下さい)。シールテープ・シール剤等を使用して取り付けして下さい。
 純正インマニボルト(2ヶ)、純正インマニナット(2ヶ)、**p. フランジナットM8**(1ヶ)を使用して、2インテークマニホールドを取り付ける。

締め付けトルク
 = 34 N・m (350 kgf・cm)



- (7) ブローバイホース取り付け
 純正ガスケットと純正ナットを使用して、**23ブローバイパイプNo. 1**と**24ブローバイパイプNo. 2**を取り付ける。
 締め付けトルク
 = 10 N・m (100 kgf・cm)
51クランプL(2ヶ)を使用して、**23ブローバイパイプNo. 1**と**24ブローバイパイプNo. 2**に、300mm程度にカットした**44 19ホース**を取り付ける。



(8) オルタネーターハーネス取り付け

55 オルタネーターハーネスA

- (ア) a. フランジボルトM6×8(1ヶ)、
o. フランジナットM6(1ヶ)、
55 オルタネーターハーネスAを
使用して、オルタネーター+B端
子用ハーネスを延長する。

- (イ) 49 15 コルゲートチューブを50
mm程度使用して、(ア)の接続
部分を被覆する。

ビニールテープ等を使用して、
コルゲートチューブを巻いて固
定して下さい。

注意: +B端子部品がエンジン本体
と接触した場合、オルタネータ
ーが破損する恐れがあります
ので、確実に被覆して下さい。

- (ウ) オルタネーター+B端子に、純正
ナットを使用して取り付ける。

締め付けトルク

$$= 9.8 \text{ N} \cdot \text{m} (100 \text{ kgf} \cdot \text{cm})$$

- (エ) +B端子のプラスチックカバー
を、元通り取り付け。

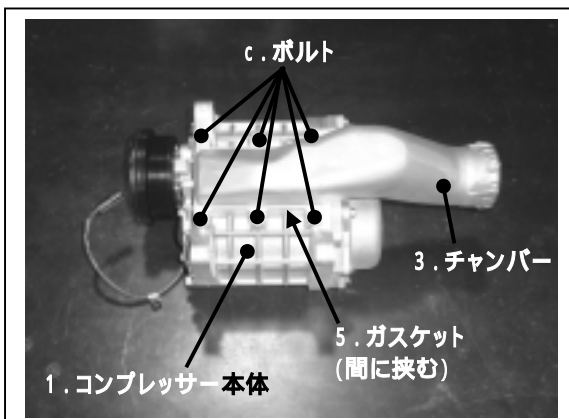
56 オルタネーターハーネスB

- (ア) 56 オルタネーターハーネスBを
使用して、オルタネーター用コネ
クターを延長する。

- (イ) それを、オルタネーターのコネク
ターに取り付ける。

65 タイラップを使用して、ハーネス
類を図のようにまとめて下さい。

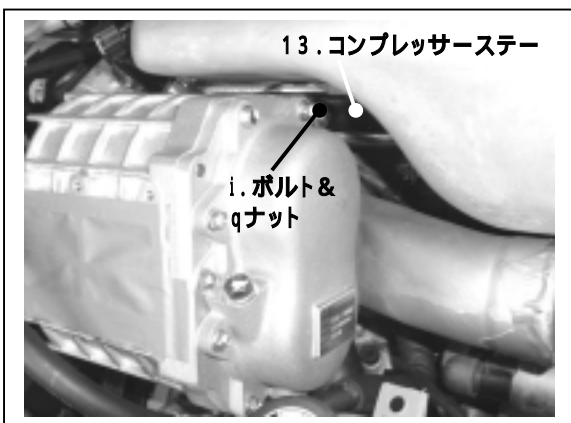
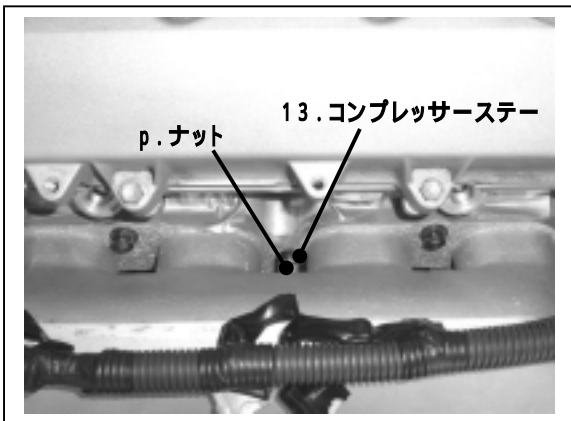
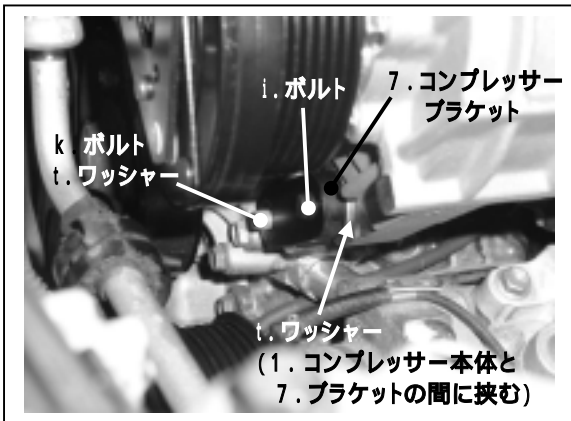
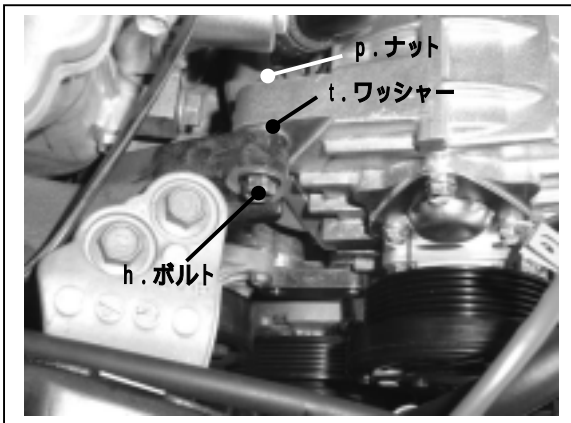
可動部・高熱部に触れない安全な
位置に、固定して下さい。



- (9) c. フランジボルトM6×20(6ヶ)と
5 ガasket(1ヶ)を使用して、1コ
ンプレッサー本体のアウトレット側
に、3チャンバーを取り付ける。

締め付けトルク

$$= 10 \text{ N} \cdot \text{m} (100 \text{ kgf} \cdot \text{cm})$$



(10) 1コンプレッサー本体取り付け
 7コンプレッサーブラケット、h. フランジボルトM8×50(1ヶ)、i. フランジボルトM10×35(1ヶ)、k. 六角ボルトM10×55(1ヶ)、p. フランジナットM8(1ヶ)、t. ワッシャーM10(3ヶ)を使用して、1コンプレッサー本体をエンジンに仮付けする。

2インテークマニホールドを取り付けている、p. フランジナットM8(1ヶ)を一度取り外し、13コンプレッサーステーを取り付け、共締めする。

13コンプレッサーステーは、仮止めです。

i. フランジボルトM10×35(1ヶ)、q. フランジナットM10(1ヶ)を使用して、13コンプレッサーステーを1コンプレッサー本体に仮付けする。

で仮付けしていたボルト類を、本締めする。

締め付けトルク

M8 = 25N・m(250kgf・cm)

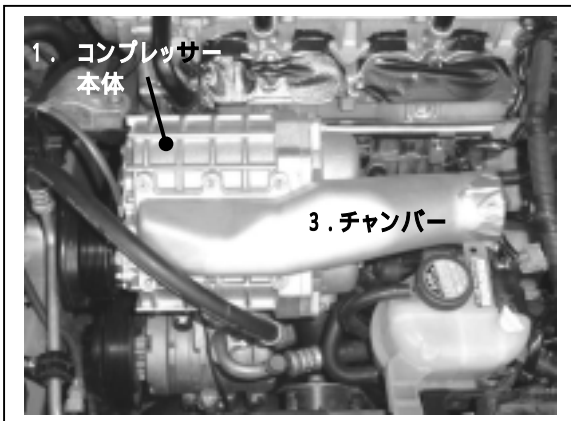
M10 = 45N・m(450kgf・cm)

・ で仮付けしていたボルト類を、本締めする。

締め付けトルク

M8 = 34N・m(340kgf・cm)

M10 = 45N・m(450kgf・cm)



- (11) アウトレット側と同様に、c. フランジボルトM6×20(6ヶ)と5ガスケット(1ヶ)を使用して、1コンプレッサー本体のインレット側に3チャンバーを取り付ける。

締め付けトルク

$$= 10 \text{ N} \cdot \text{m} (100 \text{ kgf} \cdot \text{cm})$$

- (12) フューエルデリバリーパイプ取り付け

純正ボルトを使用して、フューエルデリバリーパイプを、元通り取り付け。

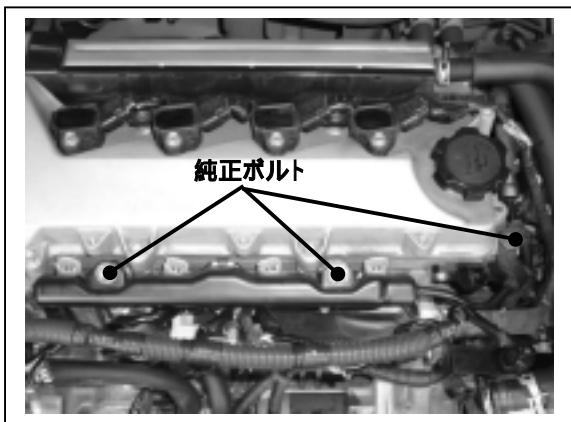
締め付けトルク

$$M6 = 9.0 \text{ N} \cdot \text{m} (92 \text{ kgf} \cdot \text{cm})$$

$$M8 = 19 \text{ N} \cdot \text{m} (194 \text{ kgf} \cdot \text{cm})$$

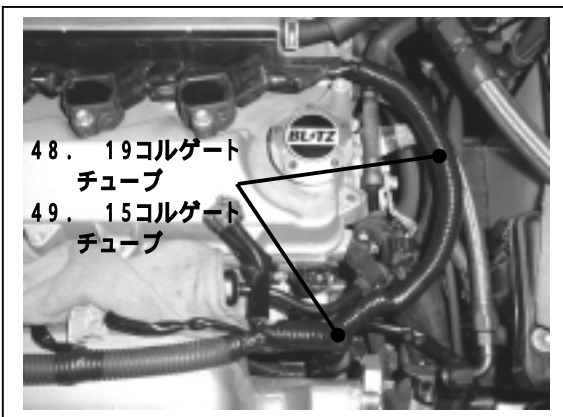
キット取り付け後のエンジン始動時に、インジェクターから燃料の漏れがないか、必ず確認して下さい。

インジェクターのコネクターおよびカムポジションセンサーのコネクターを元通り取り付け。



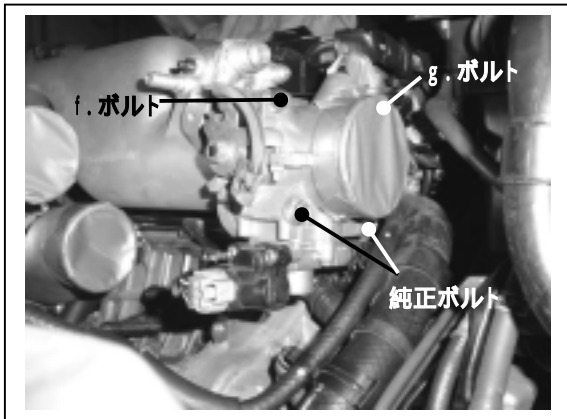
- (13) 純正ハーネスカバーを取り外し、
48 19コルゲートチューブ(100mm程度)、
49 15コルゲートチューブ(350mm程度)を使用して、ハーネスをカバーする。

ビニールテープ等を使用して、コルゲートチューブを巻き、固定して下さい。



- (14) 65タイラップを使用して、ハーネスをフューエルデリバリーパイプに固定する。





(15) スロットルボディ取り付け

f. フランジボルトM8×35(1ヶ)、
g. フランジボルトM8×45(1ヶ)、
純正スロットルボディボルト(2ヶ)、
純正ガスケットを使用して、スロットルボディを取り付ける。

締め付けトルク

$$= 22 \text{ N} \cdot \text{m} (220 \text{ kgf} \cdot \text{cm})$$

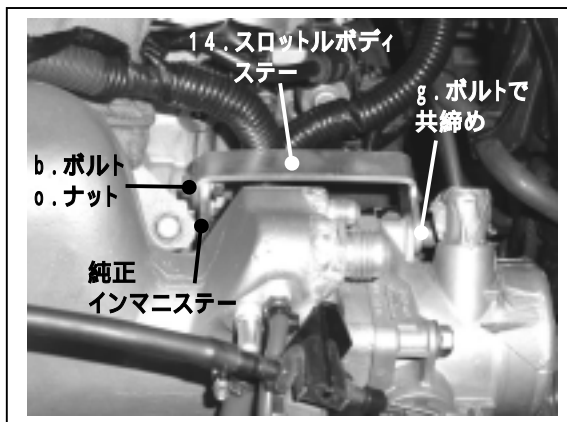
b. フランジボルトM6×16(1ヶ)、
o. フランジナットM6(1ヶ)を使用して、純正インマニステーに、14インテークマニホールドステーを取り付ける。

図の位置に共締めします。

締め付けトルク

$$= 22 \text{ N} \cdot \text{m} (220 \text{ kgf} \cdot \text{cm})$$

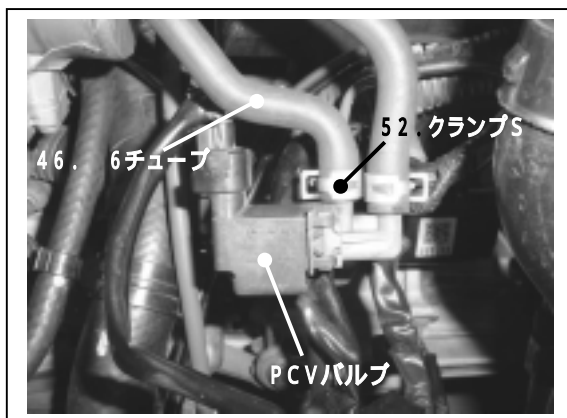
ウォーターバイパスホース2本、コネクター2ヶを、スロットルボディに元通り取り付け。

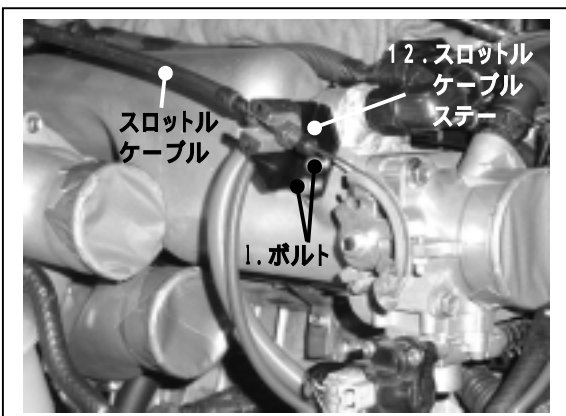
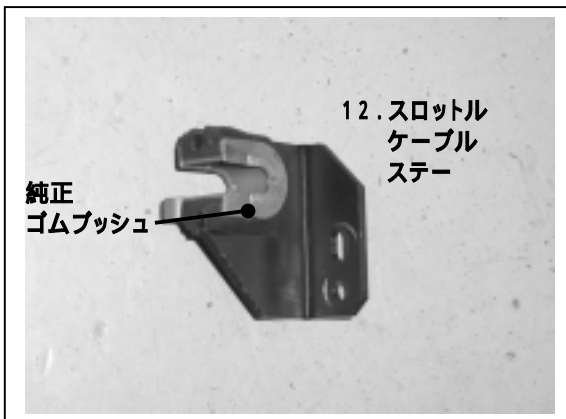
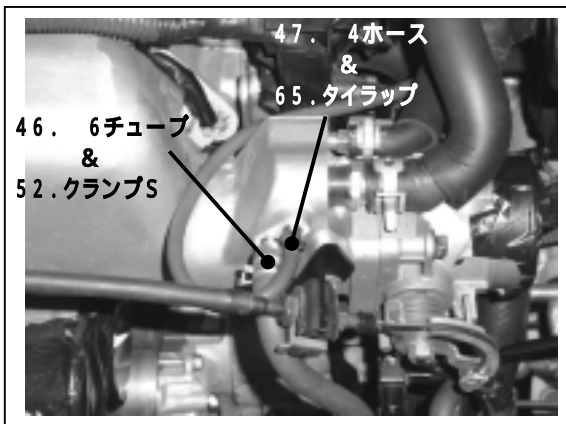
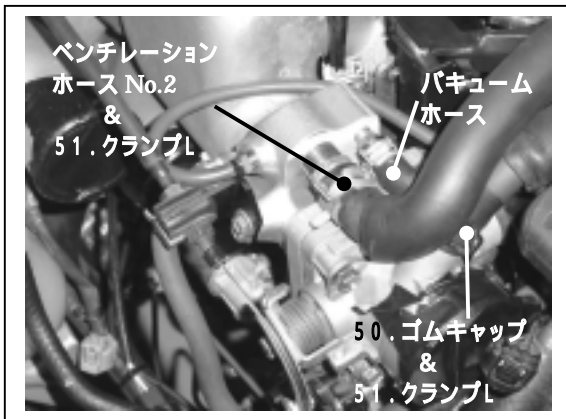


(16) 純正PCVバルブホースを、46

6チューブと付け替え、52クランプS(1ヶ)を使用して取り付け。

(17) 65タイラップを使用して、図の位置にPCVバルブを固定する。





(18) ホース類取り付け

ホースの付け間違えに十分注意して、作業して下さい。

スロットルボディのベンチレーションホース No.1 が取り付けいていたパイプに、50 ゴムキャップ 19、51 クランプ L (1ヶ) を取り付け、栓をする。

ベンチレーションホース No.2 を、2 インテークマニホールドの 41 ニップル 21 - 3 / 4 PT に、51 クランプ L (1ヶ) を使用して取り付ける。

2 インテークマニホールドの純正ニップルに、純正ホースバンドを使用して、バキュームホースを取り付ける。

40 ニップル 6 - 1 / 8 PT に、52 クランプ S (1ヶ) を使用して、(16) で付け替えた 46 6 チューブを取り付ける。

46 6 チューブが長い場合は、適当な長さにカットして使用して下さい。

39 ニップル 4 - 1 / 8 PT に、47 4 ホースを取り付け、65 タイラップで抜けないように締め付ける。

(19) スロットルケーブル取り付け

純正スロットルケーブルステーから、ゴムブッシュを取り外す。

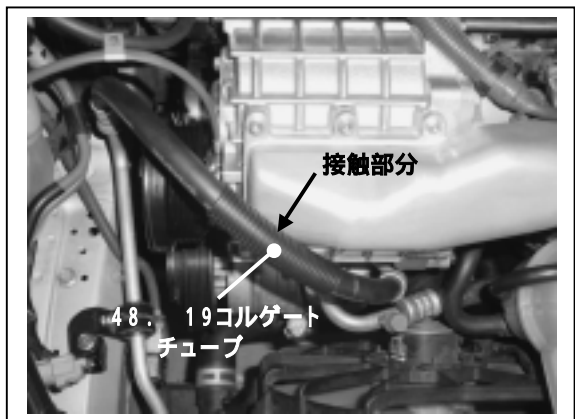
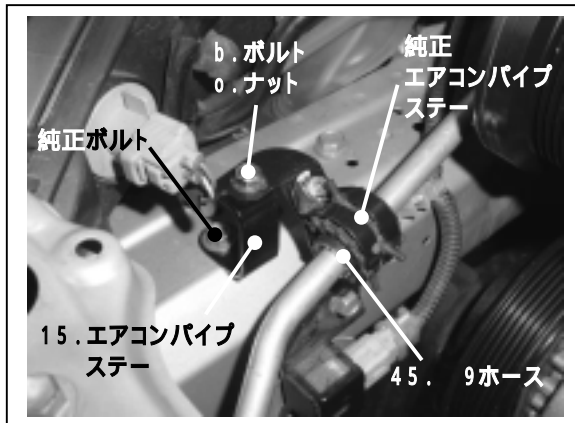
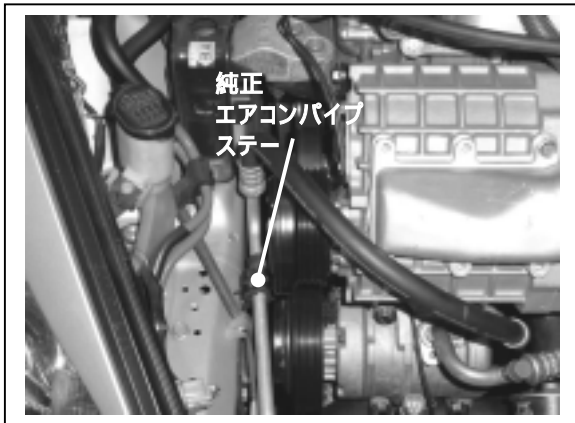
図のように、取り外したゴムブッシュを、12 スロットルケーブルステーに取り付ける。

1. キャップボルト M6 × 15 (2ヶ) を使用して、のスロットルケーブルステーを、2 インテークマニホールドに取り付ける。

締め付けトルク

= 10 N・m (100 kgf・cm)

スロットルケーブルを取り付ける。



(20) エアコンパイプステーの取り付け
純正エアコンパイプステーのボルト(1ヶ)を取り外す。

図の位置に純正エアコンパイプステーを移動する。

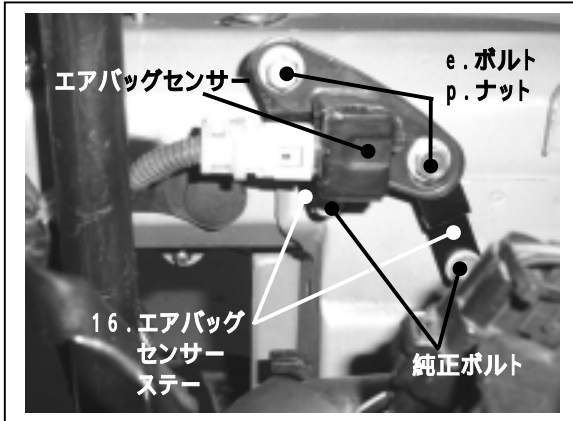
45 9ホースを30mm程度カットし、エアコンパイプと純正エアコンパイプステーの間に挟む。

ゴムホースは、切り込みを入れて、エアコンパイプに取り付けて下さい。

b. フランジボルトM6×16(1ヶ)、o. フランジナットM6(1ヶ)、純正エアコンパイプステーボルトを使用して、15エアコンホースステーを取り付ける。

エアコンホースが、1コンプレッサー本体のプーリーに当たらないよう、エアコンパイプステーの位置を調節して下さい。

(21) エアコンホースの、1コンプレッサー本体インレット側の3チャンバーと接触する部分に、48 19コルゲートチューブ(100mm程度)を取り付ける。



(22) エアバッグセンサー移動

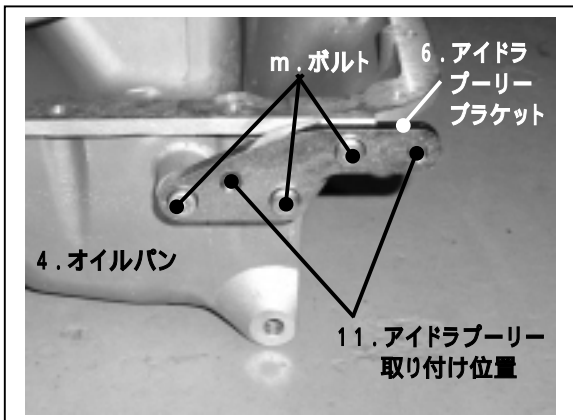
車輻左側のエアバッグセンサーのボルト(2ヶ)を取り外し、エアバッグセンサーをフリーにする。

16エアバッグセンサーステー(2ヶ)、e. フランジボルトM8×16(2ヶ)、p. フランジナットM8(2ヶ)、純正ボルト(2ヶ)を使用して、エアバッグセンサーを移動する。

締め付けトルク

$$= 25 \text{ N} \cdot \text{m} (250 \text{ kgf} \cdot \text{cm})$$

エアバッグセンサーの配線を束ねているテープを少しカットして、配線に余裕を持たせて下さい。



(23) 11アイドラプーリー取り付け

m. キャップボルトM8×15(3ヶ)を使用して、6アイドラプーリーブラケットを、4オイルパンに取り付ける。

締め付けトルク

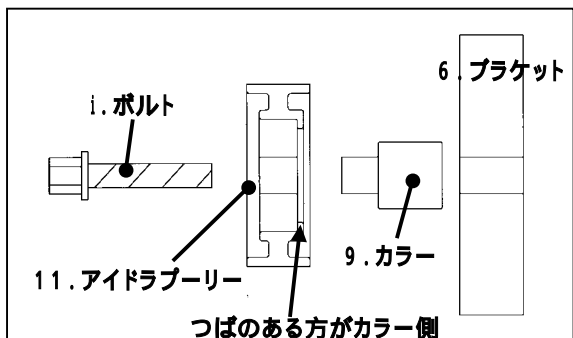
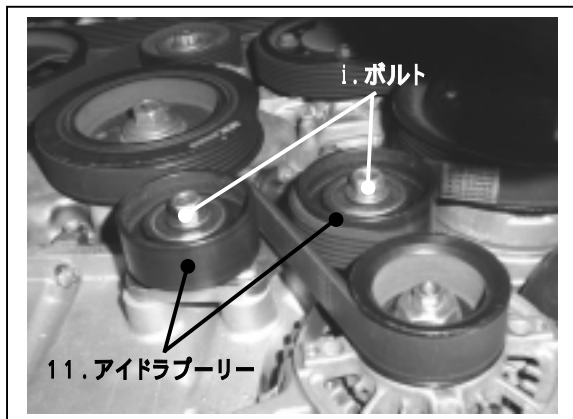
$$= 18.5 \text{ N} \cdot \text{m} (188 \text{ kgf} \cdot \text{cm})$$

9アイドラプーリーカラー(2ヶ)、i. フランジボルトM10×35(2ヶ)を使用して、11アイドラプーリー(2ヶ)を取り付ける。

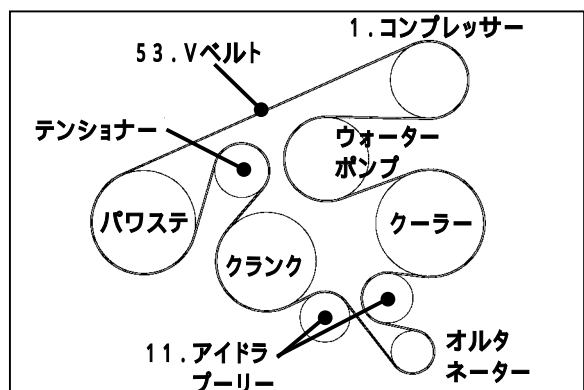
締め付けトルク

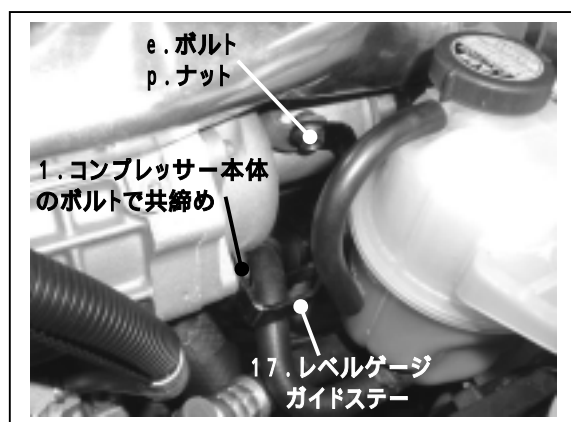
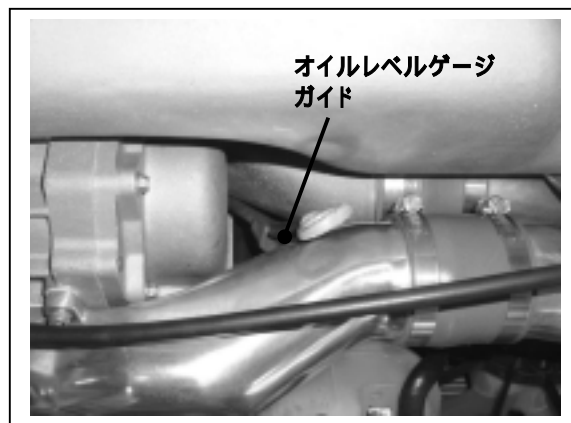
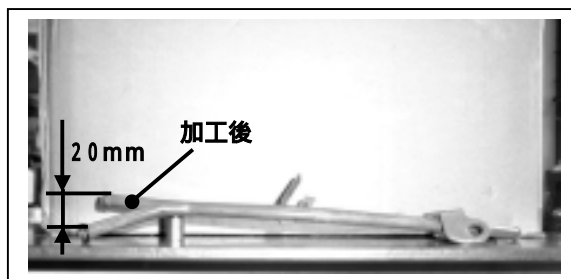
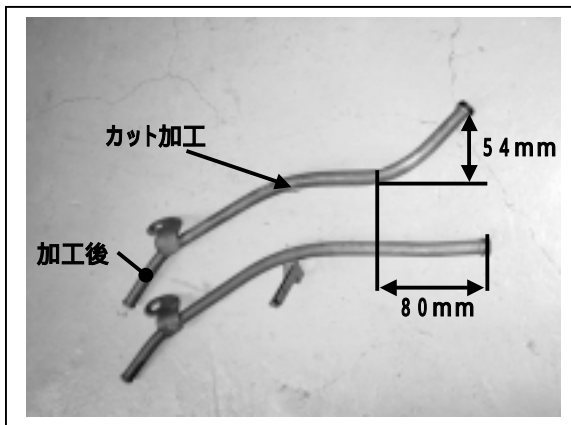
$$= 45 \text{ N} \cdot \text{m} (450 \text{ kgf} \cdot \text{cm})$$

11アイドラプーリーは、つばのある方を、9カラー側にして下さい。



(24) テンショナーを緩めて、図のように53Vベルトを取り付ける。





(25) オイルレベルゲージ取り付け
純正オイルレベルゲージガイドの
コネクターが取り付けられていたステー
をカットする。

パイプに損傷を与えないように
注意して下さい。

加工時は、保護メガネ・マスク・
軍手等を着用して、安全に作業
して下さい。

カットか所は、錆止めの処置をし
て下さい。

純正オイルレベルゲージガイドを、
図のように曲げ加工する。

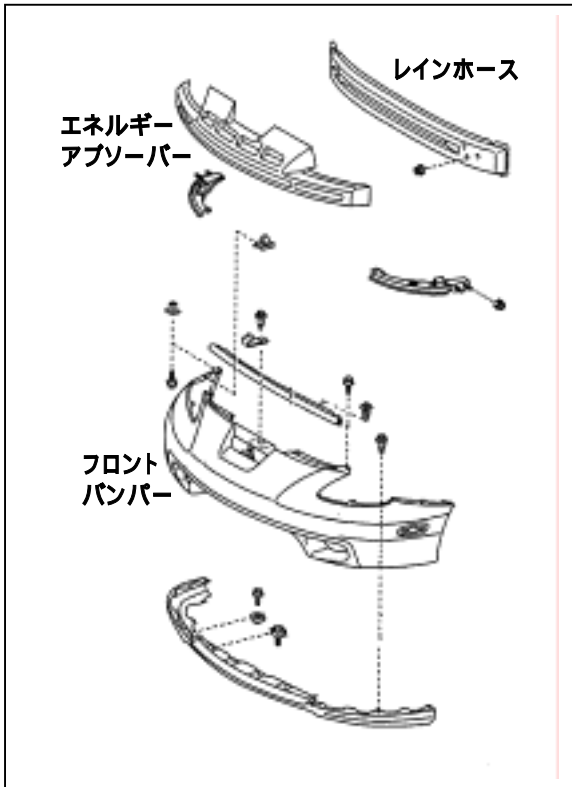
図中の寸法は、目安です。車輛
個体差により寸法は若干変わ
りますので、車輛との具合を見
ながら、加工して下さい。

オイルレベルゲージを差し込む
ことができるか、その都度確認
しながら加工して下さい。

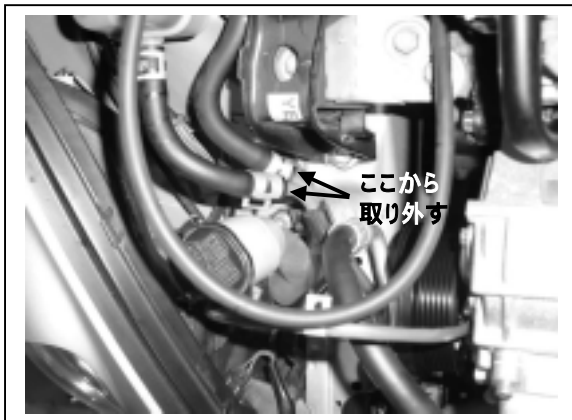
パイプの折れ・潰れに注意しな
がら、慎重に加工して下さい。

17レベルゲージガイドステー、
e. フランジボルトM8×16(1ヶ)、
p. フランジナットM8(1ヶ)を使用
して、オイルレベルゲージガイド
を取り付ける。

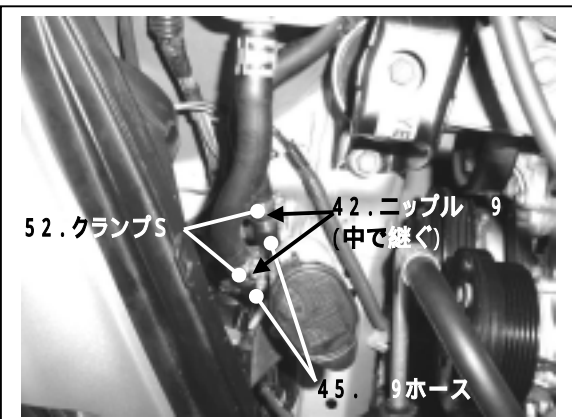
オイルレベルゲージを取り付ける。



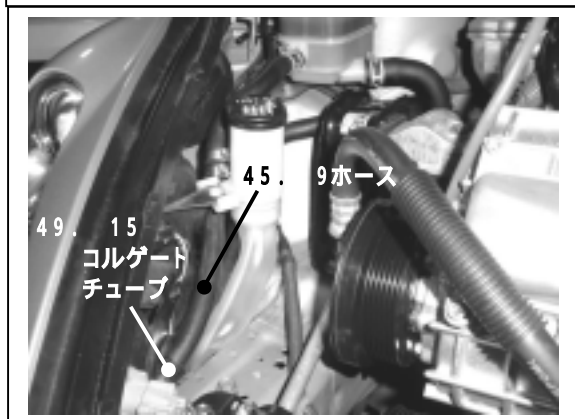
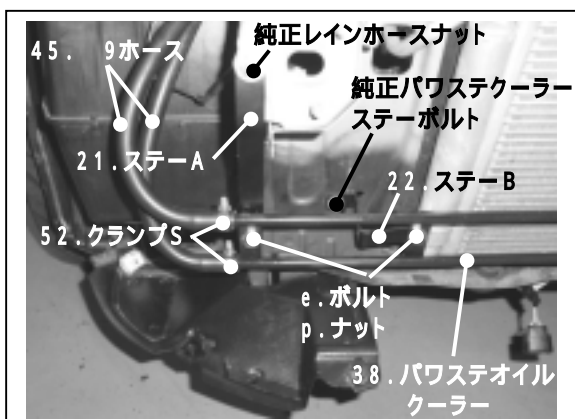
- (26) フロントバンパー取り外し
 スクリュ、ボルト、ナット、クリップ、ツメのかん合、ランプ類のコネクターを外し、フロントバンパーを取り外す。
 ナット(2ヶ)を外し、左右のフォグランプASSYを取り外す。
 エネルギーアブソーバー、レインホースを取り外す。



- (27) パワステクーラー取り外し
 パワステフルードを抜き取る。
 パワステクーラーステー2個を取り外す。
 クランプを外して、パワステクーラーを、図の位置より取り外す。
 パワステフルードの漏れに注意して下さい。



- (28) 38パワステオイルクーラー取り付け
 42ストレートニップル 9(2ヶ)、
 45 9ホース(2ヶ)、52クランプS(4ヶ)を使用して、パワステクーラーホースを延長する。
 21パワステクーラーステーA、
 22パワステクーラーステーB、
 e. フランジボルトM8×16(2ヶ)、
 p. フランジナットM8(2ヶ)、純正パワステクーラーステーボルト(1ヶ)、純正レインホースナット(1ヶ)を使用して、38パワステオイルクーラーを取り付ける。



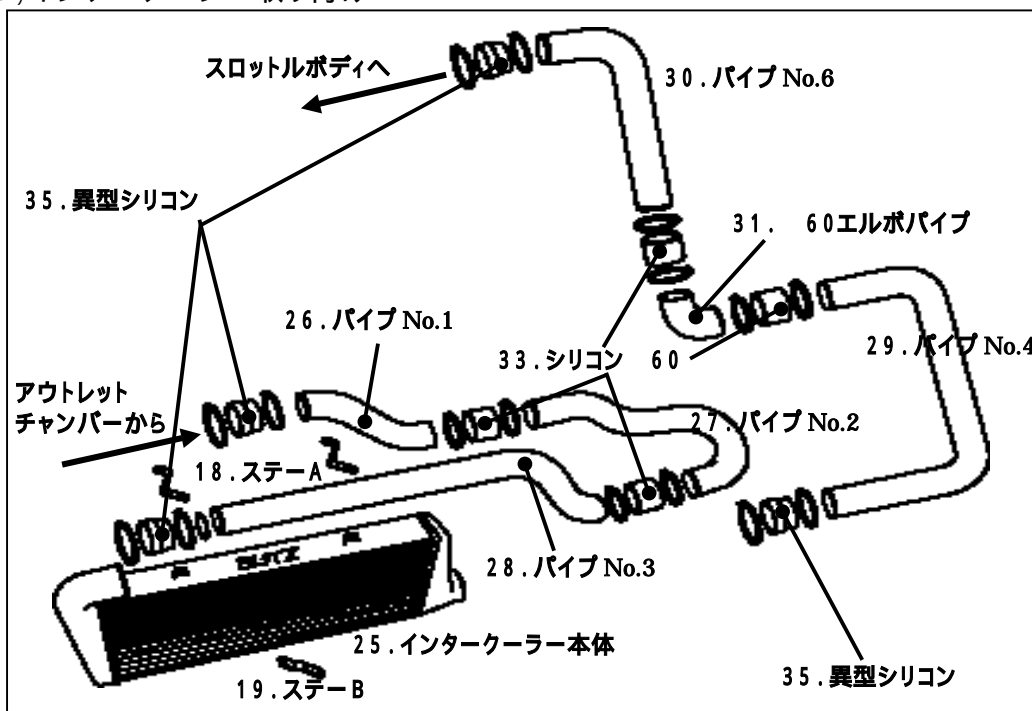
52 クランプS (2ヶ) を使用して、
45 9ホースを、38 パワステオイルクーラーに取り付ける。

45 9ホースが長い場合は、適当な長さにカットして下さい。

45 9ホースのボディに当たる部分に、49 15 コルゲートチューブを取り付けて、保護する。

延長したパワステホースが、可動部・高熱部に接触しないように、取り回して下さい。

(29) インタークーラー取り付け



18 インタークーラー ステア A (2ヶ)、19 インタークーラー ステア B、c. フランジボルト M6 × 20 (2ヶ)、r. ワッシャー M6 (2ヶ)、d. フランジボルト M8 × 12 (3ヶ) を使用して、25 インタークーラー 本体を取り付ける。

18 ステア A と 19 ステア B は、9 穴の方が、25 インタークーラー 本体に取り付きます。

19 インタークーラー ステア B は、外気温センサー ステア と共締めします。

25 インタークーラー 本体が水平になるように調節し、ボディ等に干渉しないように、取り付けして下さい。

図1のパイプを、パイピングの邪魔にならないように、曲げ加工する。

パイプの折れ・潰れ等に注意して、慎重に作業して下さい。

26 インテークパイプ No.1、27 インテークパイプ No.2、28 インテークパイプ No.3、29 インテークパイプ No.4、30 インテークパイプ No.6、31 60エルボパイプを、33 シリコンホース 60 (4ヶ)、35 異型シリコン 60 - 70 (4ヶ)、36 ホースバンド L (4ヶ)、37 ホースバンド S (12ヶ) を使用して取り付け。

シリコンホースの 70 の箇所には 36 ホースバンド L を、60 の箇所には 37 ホースバンド S を使用します。

27 インテークパイプ No.2 のステアを、b. フランジボルト M6 × 16 (1ヶ)、o. フランジナット M6 (1ヶ) を使用して、図4の位置に固定する。

28 インテークパイプ No.3 のステアを、純正レインホースナット (1ヶ) を使用して、図5の位置に固定する。

各インテークパイプには、インテーク No. と方向 (コンプレッサー スロットルボディ) が記されたステッカーが、貼ってあります。

各インテークパイプが、ボディ等に干渉しないように、取り付けして下さい。

ホコリや異物が混入しないように、注意して下さい。

車輻左側のエンジンアンダーカバーの一部を、インテークパイプが通るようにカット加工して下さい。

フロントバンパーが、25インタークーラー本体や各インテークパイプに干渉しないように、フロントバンパーカバーの干渉する部分をカット加工する。

加工時は、保護メガネ・マスク・軍手等を着用して、安全に作業して下さい。フロントバンパー、ランプ類のコネクターを元通り取り付け。

図6に示したフロントバンパー上部の2か所は、18インタークーラーステーAを取り付けているc.フランジボルトM6×20、r.ワッシャーM6で、共締めして下さい。

エネルギーアブソーバー、レインホース、フォグランプは、取り付けできません。

エンジンアンダーカバー類を元通り取り付け。

図1

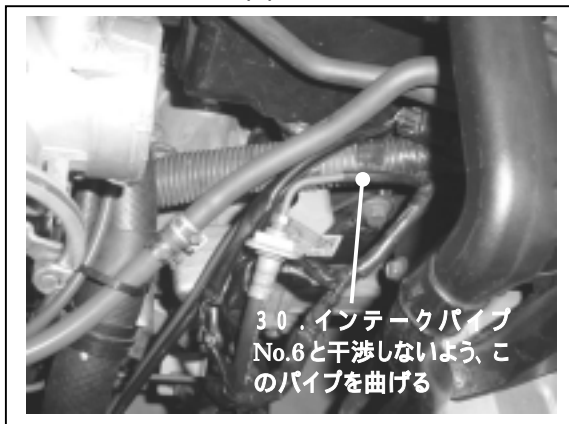


図2

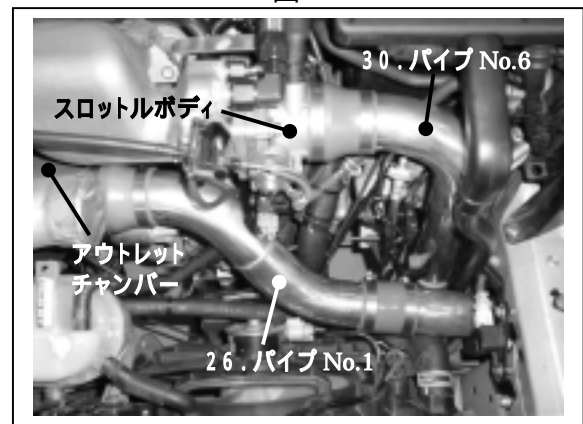


図3

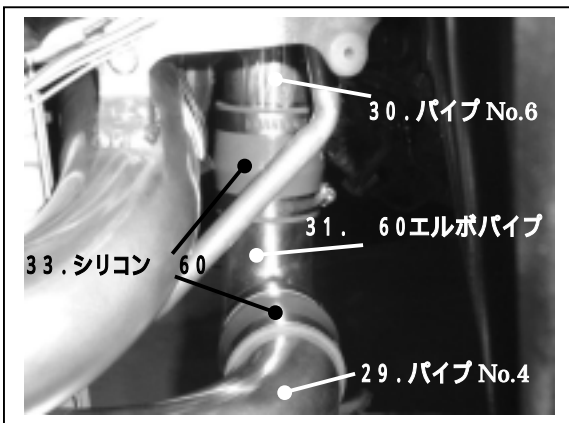


図4



図5

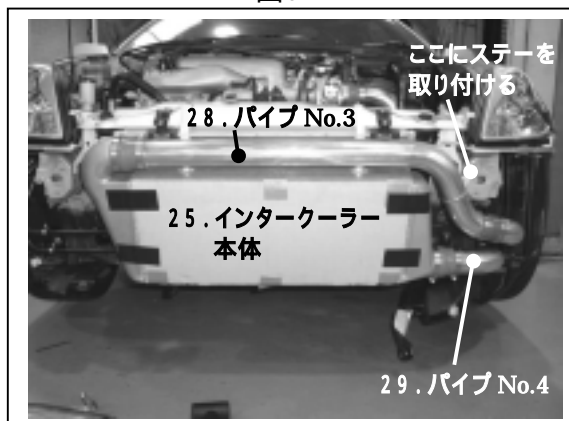
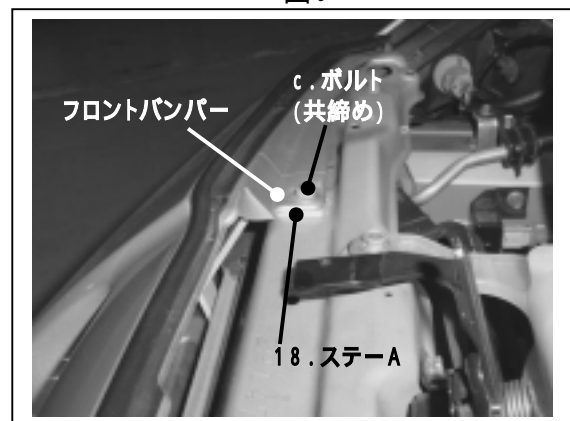


図6



(30) エアクリーナー取り付け

63 SUSパワーLMキット内の取扱説明書も参考にしてください。

63 SUSパワーLMキット内の、アダプターとエアフロアダプターを、キット付属のM6ボルト(4ヶ)とM6ナット(4ヶ)を使用して組み立てる。

LMキット付属のM4ボルト(2ヶ)、スペーサー(2ヶ)を使用して、純正エアフロセンサーをエアフロアダプターに取り付ける。

エアフロセンサーの向きに注意して下さい。

で組み立てたアダプターを、32サクシオンパイプ、34シリコンホース 70(2ヶ)、36ホースバンドL(4ヶ)を使用して、1コンプレッサー本体インレット側の3チャンバーに仮付けする。

20エアクリーナーステーを図の位置に共締めし、b. フランジボルトM6×16(1ヶ)を使用して、ボディに固定する。

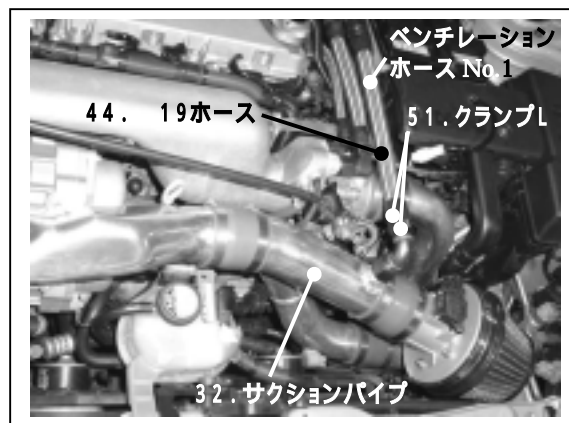
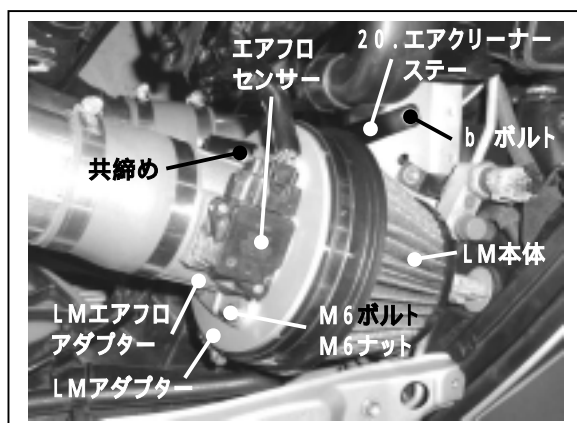
で仮付けだった36ホースバンドLを本締めする。

LMキット内のクリーナー本体を、付属のバンドで取り付ける。

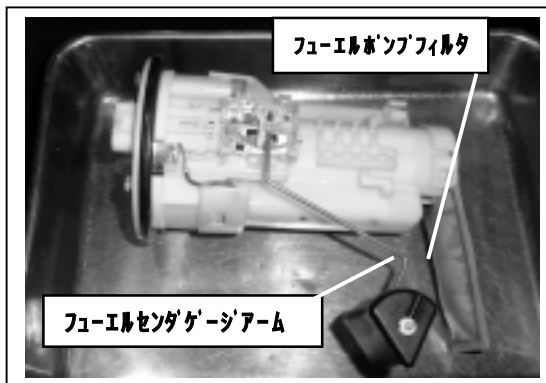
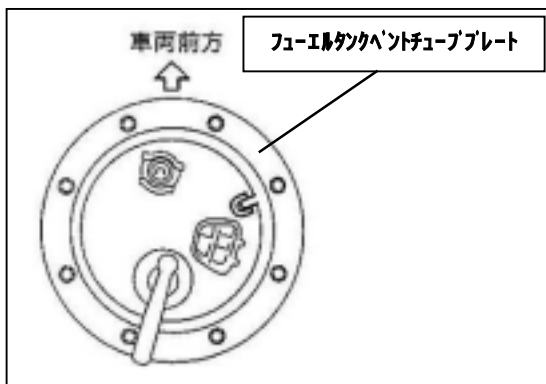
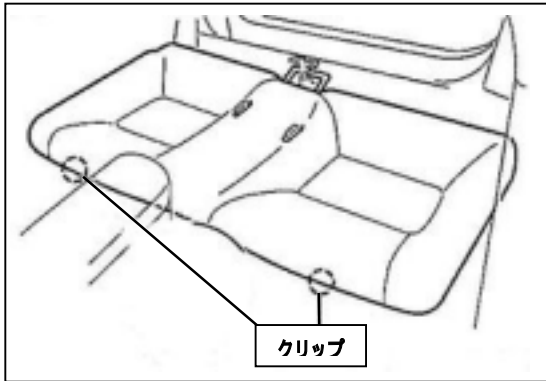
エアフロセンサーコネクターを取り付ける。

43ストレートニップル 19、44 19ホース、51クランプL(2ヶ)、を使用して、ベンチレーションホース No.1 を延長する。

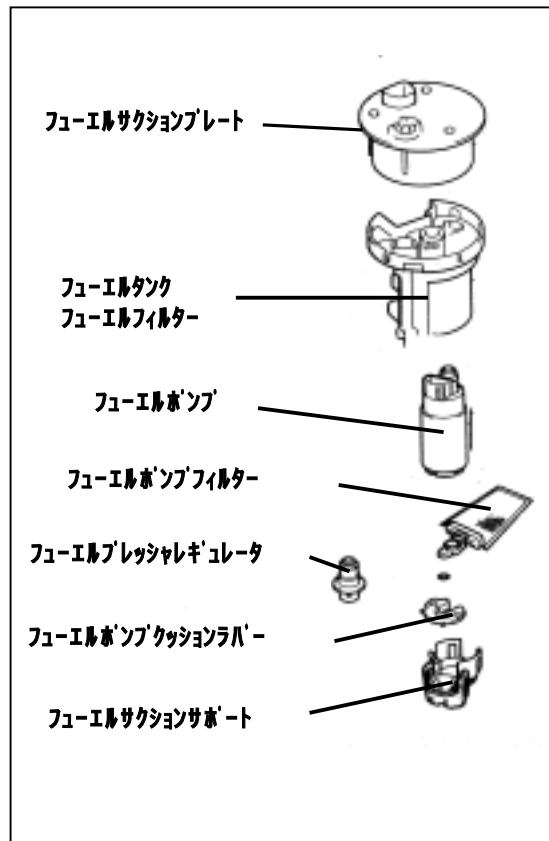
延長したベンチレーションホース No.1 を、32サクシオンパイプの 19パイプ部に、51クランプL(1ヶ)を使用して取り付け。

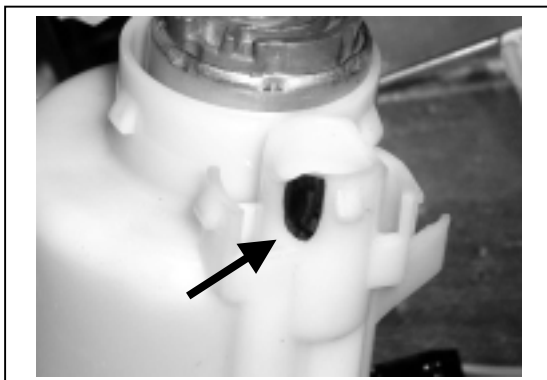


(31)レギュレータ交換



リアシートを取り外す。
 サービスホールのカバーを取り外し、
 燃料ポンプ用のコネクターを切り離す。
 フューエルエバポレーションチューブ、
 メインチューブを切り離す。
 M5 ボルト 8 本を外し、フューエルタンク
 ベントチューブセットプレートを取り外
 す。
 フューエルポンプ ASSY をタンクよりゆ
 っくり抜き取る
 フューエルポンプフィルターを傷つけない。
 フューエルセンダゲージアーム部が曲
 がないように注意する。
 マイナスドライバーを使用してツメのか
 ん合を外し、フューエルサクシオンポ
 ートを取り外す。
 フューエルプレシャレギュレータを取
 り外す。

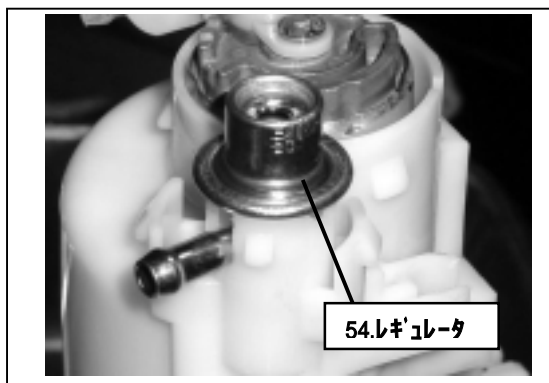




左図矢印が指す黒く記しがしてある部分を削る。

フューエルサクシヨンポートのツメ部は絶対に削らないで下さい。

加工後は異物が残らないように洗浄して下さい。



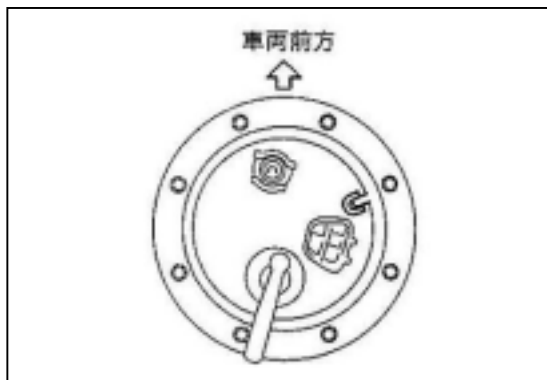
左図のように付属の54.フューエルレギュレータをOリング部にガソリンを塗布して取り付ける。

Oリング部は接着部の傷つき、異物の付着に対し十分注意し、ねじれたりしないよう差し込んで下さい。



フューエルポンプクッションラバーを取り付ける

フューエルサクシヨンサポートを取り付ける。



フューエルポンプフィルター、フューエルセンダゲージアームを傷ついたり、曲げたりしないようゆっくりとフューエルポンプASSYを燃料タンクに挿入する。

M5 ボルト8本でフューエルタンクベントチューブプレートを取り付ける。

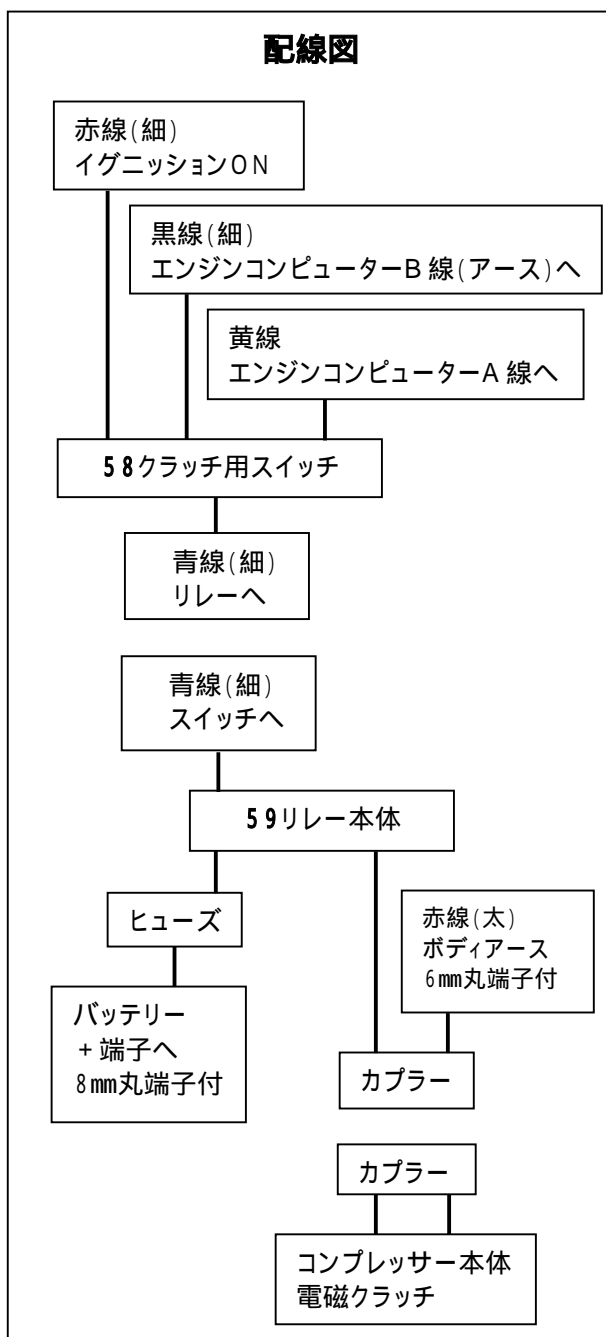
T=3.5N.m

フューエルエバポレーションチューブ、メインチューブ、燃料ポンプ用のコネクタを取り付ける。

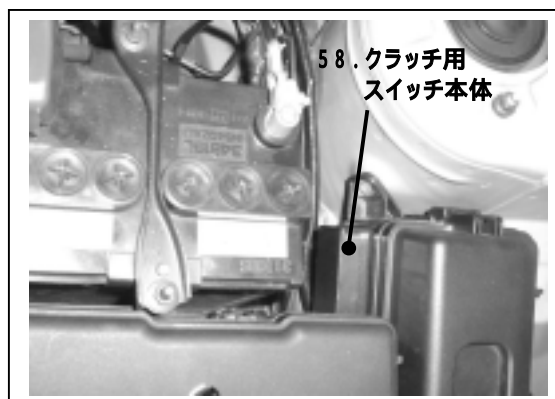
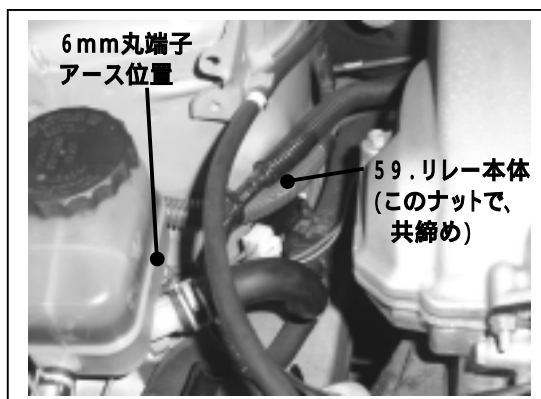
接着部に傷及び異物などの付着が無いことを確認して下さい。

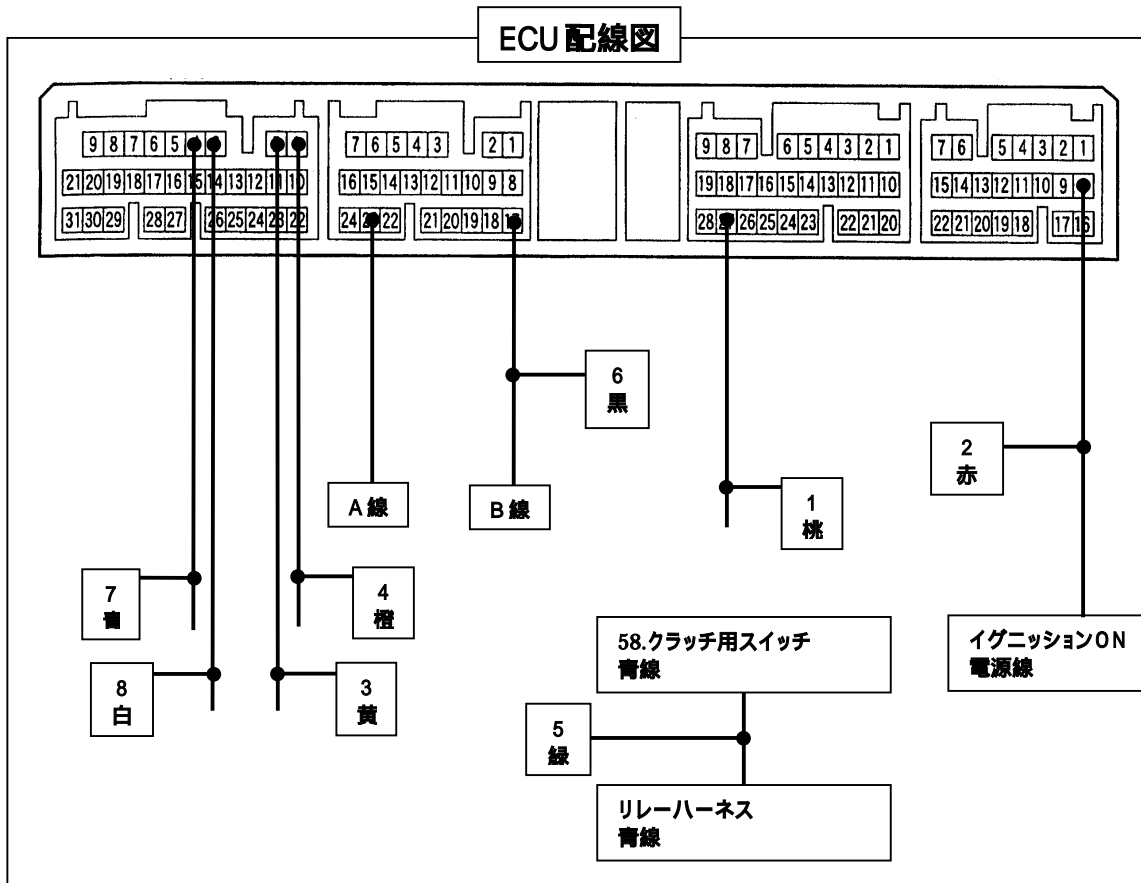
接続後、コネクタとパイプを引っ張り、確実に組み付けられていることを確認して下さい。

サービスホールカバーを取り付け、リアシートを取り付ける。



- (32) 58クラッチ用スイッチ取り付け
 59リレーハーネスのリレー本体を、下図の位置に固定する。
 58クラッチ用スイッチのスイッチ本体を、下図の位置に両面テープで固定する。
 59リレーハーネスのカプラーを、コンプレッサーから出ているハーネスカプラーに接続する。
 59リレーハーネスのカプラーから出ている赤線(6mm丸端子)を、下図のボディアース位置に取り付ける。
 59リレー本体から出ている赤線(8mm丸端子)を、バッテリープラス端子に接続する。
 59リレー本体から出ている青線を、58クラッチ用スイッチの青線に接続する。
 58クラッチ用スイッチの黄線を、エンジンコンピューターA線へ接続する。(ECU配線図参照)
 58クラッチ用スイッチの黒線(細)を、エンジンコンピューターのB線に接続する。(ECU配線図参照)
 58クラッチ用スイッチの赤線(細)を、エンジンコンピューターのイグニッションON電源線に接続する。(ECU配線図参照)
 エレクトロタップで接続する際には、配線の断線等ないように、十分注意して下さい。





(33) フューエルコントローラー取付作業

ECU 配線図に従って、60.フューエルコントローラー配線と純正 ECU 配線を接続する。

フューエルコントローラー本体を適当な所へ固定する。



(34) シリンダーヘッドカバーシール取り付け

純正シリンダーヘッドカバーシールを2インテークマニホールドと干渉しないように、図のようにカット加工する。

加工時は、保護メガネ・マスク・軍手等を着用して、安全に作業して下さい。

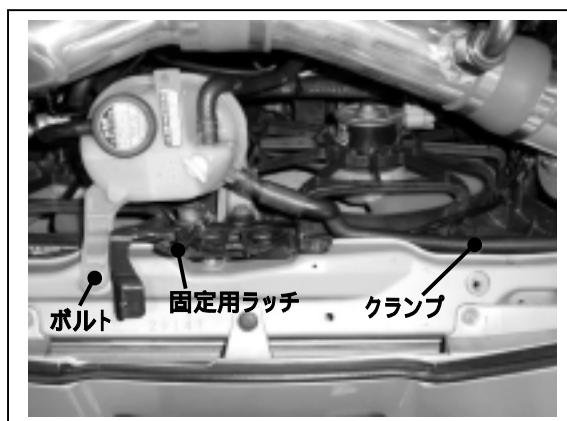
加工した純正シリンダーヘッドカバーを、純正ボルトを使用して取り付ける。

(35) バッテリーマイナス端子を取り付ける。

(36) イグニッションキーをONにした瞬間、コンプレッサープーリーのクラッチが「カチッ」と入ることを確認する。

入らない場合は、58クラッチ用スイッチおよび59リレーハーネスの配線等が、確実に配線できているか確認して下さい。

(37) 冷却水注入



図の位置のボルトおよびクランプを外す。

リザーブタンクを持ち上げ、ボンネット固定用ラッチに引っかけて固定する。

各ホースが、リザーブタンクに向かって上り勾配となっていることを確認して下さい。

ラジエーターキャップおよびエア抜きバルブを外し、冷却水をFULLレベルまで注入する。

ラジエーターキャップおよびエア抜きバルブを外した状態でエンジンを始動し、電動ファンが一度回って止まるまで十分暖機する。

エアコンはOFFにしておいて下さい。

エンジン始動時に、インジェクターから燃料の漏れがないか、確認して下さい。キャップおよびエア抜きバルブを取り付ける。

エンジン回転を、約3000rpmを5秒、アイドル回転を5秒で、15分以上間欠運転をし、エンジンを止めて冷却する。

エンジンが十分冷却したのを確認し、リザーバタンクの水位がLOW～FULLの間にあることを確認する。

エンジン暖機直後から完全冷却にて水位は約20mm下がるため、暖機直後の水位は、FULL以上あるようにして下さい。

(38) エプロンシールカバーを元通り取り付け。

(39) パワステフルード注入

車輦をリフトアップする。

パワステフルードリザーバタンクに、基準範囲の上限までフルードを注入する。

エンジン停止状態で、ステアリングホイールのロックトゥロックをゆっくり数回行う。

リザーバタンクのフルードが無くなるように、補充しながら行って下さい。車輦をリフトダウンする。

アクセルペダルを踏まずにエンジンを始動して、数分放置する。

エンジン回転数1000rpm以下で、ステアリングホイールのロックトゥロックを数回繰り返す。

ロックトゥロックは、いっばいに切った状態で2～3秒間保持し、切り返しは素早く行って下さい。

エンジン回転数1000rpm以下で、ステアリングホイールの据え切り保持を、2～3秒間隔で数回繰り返す。

据え切り保持は、いっばいに切った状態で5～6秒保持して下さい。

ステアリングホイールをいっばいに切った状態で、10秒以上保持しないで下さい。

フルードリザーバタンクの泡立ちおよび白濁が消えるまでエンジンを停止して放置した後、アイドル回転でのロックトゥロックおよび据え切り保持のエア抜き()を行っても、泡立ちおよび白濁がないことを確認する。

エア抜きで効果が出ない場合は、38パワステクーラーおよび45 9ホースの取り付けが確実に出来ているか、確認して下さい。

パワステフルードのレベルが基準値にあるか確認する。

基準値より少ない場合は、フルードを基準値まで補充して下さい。

エンジンを停止する。

以上で、本キットの取り付けは終了です。

(6) 取り付け後の確認

エンジン始動前の確認

- ・ パイプ、ホース等配管及び配線に間違いがないか確認してください。
- ・ ボルト、ナット類の締め忘れがないか確認してください。
- ・ ガソリンはハイオクガソリンが入っているか確認してください。

エンジン始動後の確認

- ・ コンプレッサーから異音等がないか確認してください。
- ・ 軽く空ぶかしをおこない、Vベルト、コンプレッサー等に異常がないか確認してください。(ベルトのスリップ、歯とび)
- ・ 冷却水、燃料、オイル等の漏れがないか確認してください。

(7) メンテナンス

快適に運転していただく為、お車を運転する前には必ず日常点検を行ってください。
尚、本キットを取り付けた後に維持、管理する項目については必ず実施してください。

コンプレッサーキット装着時の維持、管理項目

- ・ コンプレッサーギアオイルの点検(20000Kmで点検)
このギアオイルは交換の必要はありません。
- ・ エンジンオイルの定期的な交換(推奨 5000Km以内で交換)
- ・ エンジンオイルフィルターの定期的な交換(推奨 10000Km以内で交換)
- ・ Vベルトの定期的な点検、交換(推奨 5000Kmで点検)
- ・ ハイオクガソリンの使用(レギュラーガソリンは絶対に使用しないでください)

(8) 推奨パーツ

- ・ プラグ BLITZ Iridium Spec 77 T7340B - 7 コードNo.14437
- ・ プラグ BLITZ Iridium Spec 77 T7340B - 8 コードNo.14438
- ・ Vベルト(6PK2523) コードNo.10126-017

製品についてのご相談先

製品についてのお問い合わせは、お電話またはFAXにて下記宛てにお願いします。

連絡先 株式会社 ブリッツ TEL 0566-79-2200(代)
住所 愛知県安城市高棚町大道40-1 FAX 0566-79-2070

製造・発売元	株式会社 ブリッツ
取扱説明書番号	10181001
初版作製年月日	2007.10.1

BLATZ